

令和7年度 第1回浜松市環境影響評価審査会

日時：令和7年10月3日（金）午後1時30分から

会場：浜松市役所鴨江分庁舎 2階会議室 + WEB

次 第

1 開会

2 議事

浜松市新清掃工場及び新破砕処理センター施設整備運営事業

事後調査報告書（施設供用時2024年度版）について

3 閉会

《配付資料》

○事前配付

浜松市新清掃工場及び新破砕処理センター建設に係る環境影響評価

事後調査報告書（施設供用時2024年度版）

○当日配付

・次第、環境影響評価審査会委員名簿

・座席表

・資料1 環境影響評価 事後調査報告書手続きについて

・資料2 浜松市新清掃工場及び新破砕処理センター建設に係る環境影響評価

事後調査報告（2024年度）（非公開版）

・参考資料 庁内関係課からの事前意見に対する事業者見解

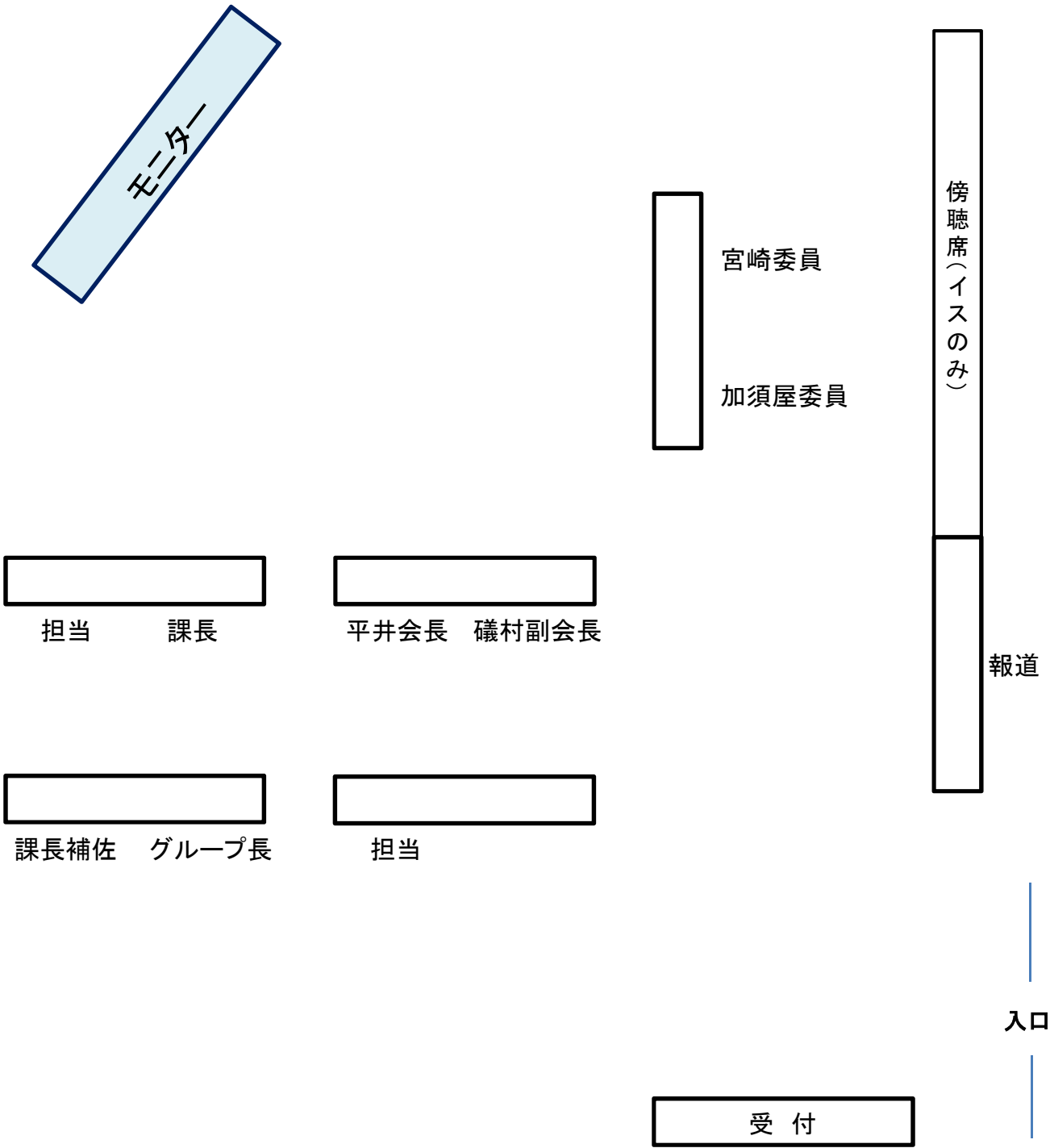
浜松市環境影響評価審査会 委員名簿

(令和5年4月1日～令和8年3月31日) (50音順 敬称略)

	委員氏名	所属等	出席状況	
1	いそむら かつろう 磯村 克郎	静岡文化芸術大学 デザイン研究科 教授	出席	会場
2	えぐさ ともひろ 江草 智弘	静岡大学 農学部 助教	出席	WEB
3	おおた たかゆき 太田 隆之	静岡大学 人文社会科学部 教授	出席	WEB
4	おかじま いづみ 岡島 いづみ	静岡大学 工学部 准教授	欠席	-
5	か す や まこと 加須屋 真	常葉大学 社会環境学部 非常勤講師	出席	会場
6	きたむら わたる 北村 亘	東京都市大学 環境学部 准教授	出席	WEB
7	こざき あきこ 木寄 暁子	静岡大学 理学部 教授	出席	WEB
8	こみなみ ようすけ 小南 陽亮	静岡大学 教育学部 教授	出席	WEB
9	さかた まさひろ 坂田 昌弘	静岡県立大学 食品栄養科学部 名誉教授	出席	WEB
10	しまざき やすひろ 島崎 康弘	豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授	出席	WEB
11	てらだ かずみ 寺田 一美	東海大学 建築都市学部 准教授	出席	WEB
12	ひらい かずゆき 平井 一之	一般社団法人 静岡県環境資源協会 会長	出席	会場
13	みやざき かずお 宮崎 一夫	遠州自然研究会 事務局長	出席	会場
14	むかい たかひこ 向井 貴彦	岐阜大学 地域科学部 教授	出席	WEB

令和7年度第1回浜松市環境影響評価審査会【座席表】

- 1 日時 令和7年10月3日（金） 13：30～15：00
- 2 会場 浜松市役所鴨江分庁舎 2階会議室

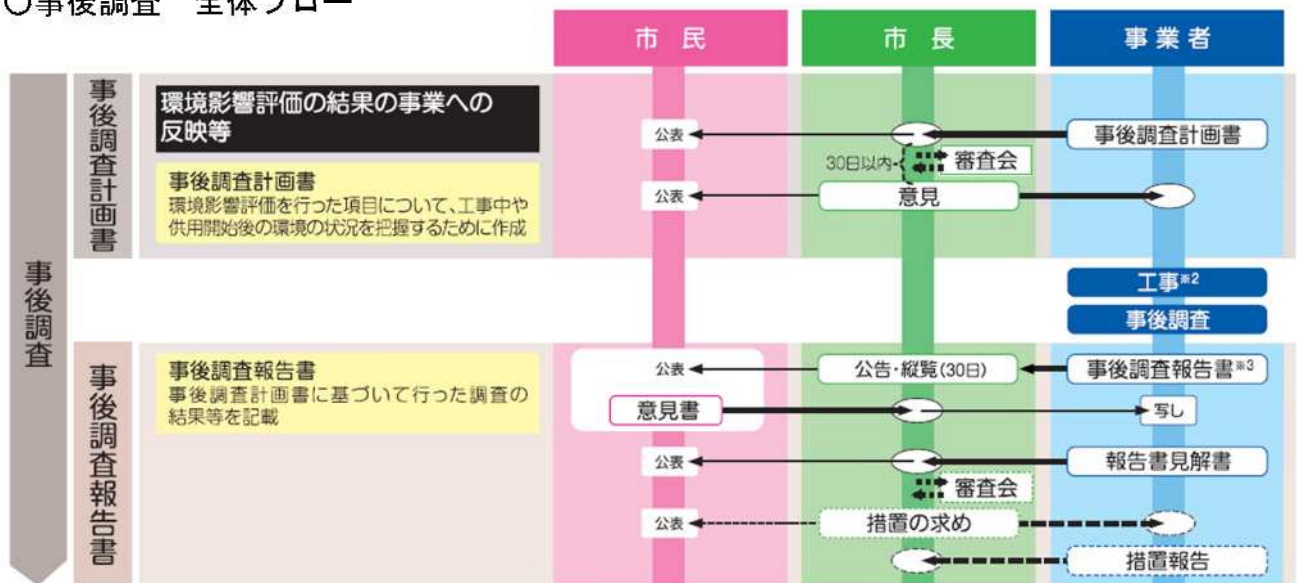


環境影響評価 事後調査報告書手続きについて

○事業概要

事業者	浜松市
事業の場所	浜松市天竜区青谷（図内ピンの位置） 
事業の種類	ごみ焼却施設の新築（浜松市環境影響評価条例対象事業）
事業規模	処理規模：焼却処理（399t/日）、破碎処理（64t/日）
過去の流れ	2017 年 9 月 環境影響評価書 提出 2018 年 1 月 事後調査計画書 提出 2018 年 6 月 工事着手 2019 年 5 月 事後調査報告書（工事の実施時 2018 年度） 提出 2021 年 5 月 事後調査報告書（工事の実施時 2019・2020 年度） 提出 2024 年 3 月 工事完了 2024 年 4 月 供用開始 2024 年 6 月 事後調査報告書（工事の実施時 2021・2022・2023 年度） 提出 2025 年 7 月 事後調査報告書（施設供用時 2024 年度版） 提出

○事後調査 全体フロー



○環境影響評価事後調査報告書とは

- ・事業の実施前に行われた環境影響評価における予測結果や環境保全措置の効果等を事業の実施後に確認し、必要に応じて追加的措置を実施することにより、環境影響評価の実施後の環境配慮の実効性を確保するもの。
- ・市長は、事業実施に係る環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあると認めるときは、事業者に対して環境保全の見地から必要な措置を講ずるよう書面により求めることができる（措置の求め）。

※当該事業は、工事の進展に伴い 2019 年、2021 年、2024 年にそれぞれ工事中のモニタリング結果をまとめた事後調査報告書を提出しているが、その際措置の求めは行っていない。

浜松市新清掃工場及び
新破碎処理センター建設に係る
環境影響評価 事後調査報告（2024 年度）

目 次

1. 事後調査の実施概要	1
2. 事後調査結果	5
2-1 発生源強度確認調査	5
2-2 環境調査	10
(1) 大気質	10
(2) 騒音・振動	19
(3) 水質	21
(4) 景観	24
(5) 人と自然との触れ合いの活動の場	26
(6) 地球環境	27
(7) 光害	28
(8) 地域交通	30

令和 7 年 10 月 3 日
浜松市環境部天竜清掃事業所

1. 事後調査の実施概要

事後調査の調査項目、調査地点、及び調査時期・期間は、事後調査計画書（平成 30 年 1 月）に基づき、以下に示すとおりとした。

表 事後調査の実施概要〔施設計画確認調査、発生源強度確認調査（ばい煙・騒音等・振動・悪臭）〕

調査項目			調査地点	調査時期・期間
発 生 源 強 度 確 認 調 査	ばい煙	硫黄酸化物 ばいじん 窒素酸化物 塩化水素 水銀 ダイオキシン類	煙突 （1号炉・2号炉）	■稼働後施設定常稼働時 （6回/年、水銀、ダイオキシン類を含む 項目は4回/年） 夏季：令和6年 7月29日、7月30日 秋季：令和6年 10月10日、10月11日 11月28日、11月29日 冬季：令和7年 2月3日、2月10日 春季：令和7年 3月11日、4月15日 4月30日、5月1日
	施設稼働騒音 及び低周波音	騒音レベル 低周波音圧レベル	敷地境界の3地点	■稼働後施設定常稼働時（1日） 令和6年 11月28日～11月29日 12:00～翌12:00
	施設稼働振動	振動レベル	敷地境界の 3 地点	■稼働後施設定常稼働時（1日） 令和6年 11月28日～11月29日 12:00～翌 12:00
	施設からの悪 臭	特定悪臭物質	敷地境界の 2 地点 （風上・風下）及び煙 突（1 号炉・2 号炉）	■稼働後施設定常稼働時 敷地境界：令和7年 2月3日 煙突 ：令和6年 10月10日
		臭気指数		

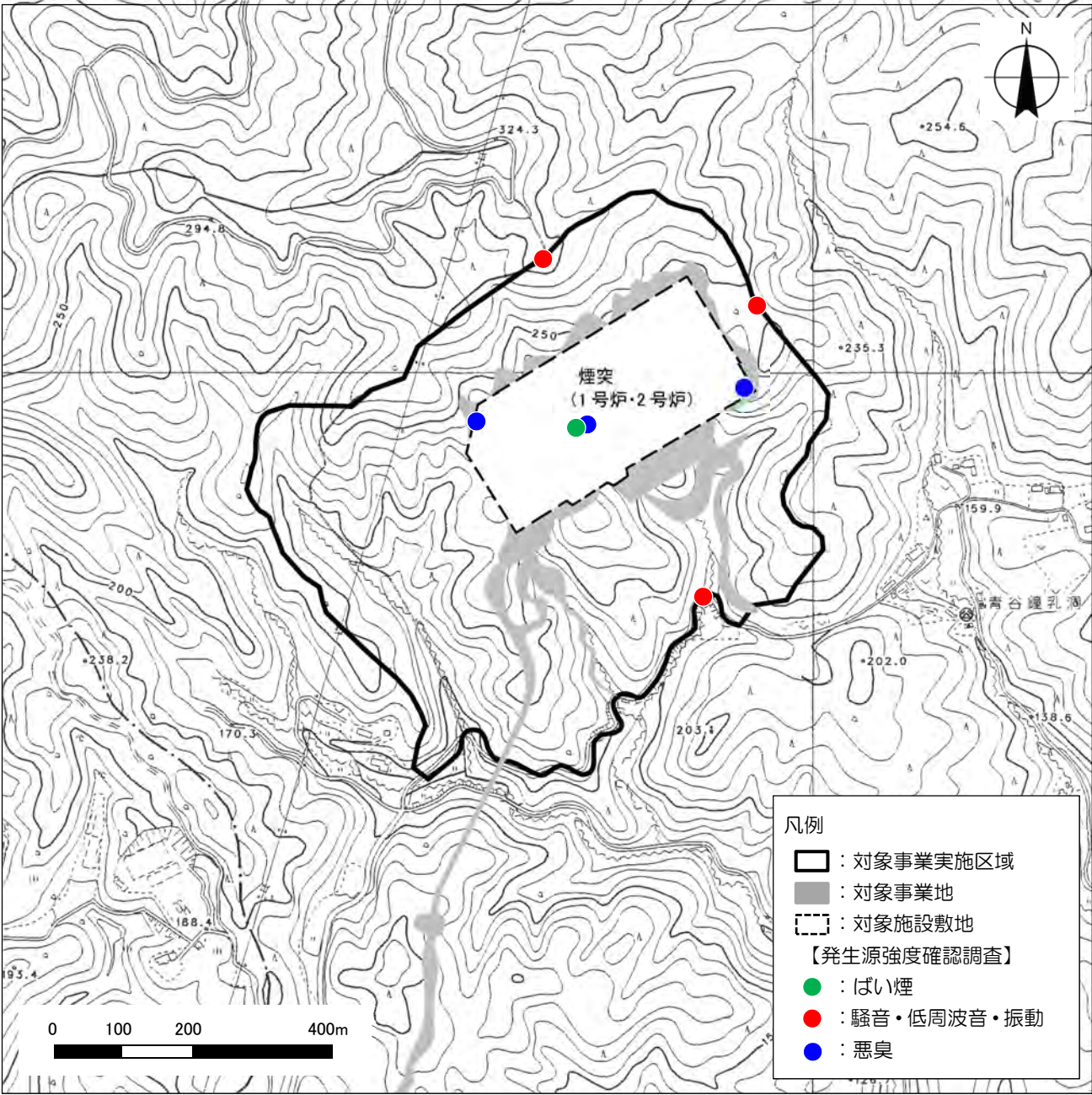


図 事後調査地点〔発生源強度確認（ばい煙・騒音等・振動・悪臭）〕

表 事後調査の実施概要〔環境調査（大気質・騒音・振動）〕

調査項目			調査地点	調査時期・期間
大気質	煙突から排出される大気汚染物質	二酸化硫黄 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 微小粒子状物質 ダイオキシン類 塩化水素 水銀 風向・風速	周辺3地点	■稼働後施設定常稼働時 (4季/年 各1週間) 夏季：令和6年 7月27日～8月2日 秋季：令和6年 10月10日～10月16日 冬季：令和7年 2月14日～2月20日 春季：令和7年 3月12日～3月18日
		二酸化硫黄 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 微小粒子状物質 風向・風速	施設近接箇所の 1地点（風向・風速 は対象施設屋上）	■自動観測による通年観測 令和6年4月1日～令和7年3月31日
	破碎処理施設の稼働に伴い発生する粉じん	降下ばいじん	周辺 3 地点	■稼働後施設定常稼働時 (4季/年 各30日間) 夏季：令和6年 7月27日～8月26日 秋季：令和6年 10月10日～11月8日 冬季：令和7年 1月22日～2月21日 春季：令和7年 2月28日～3月31日
	施設関連車両の走行に伴い発生する大気汚染物質	二酸化窒素 浮遊粒子状物質 交通量	主要走行ルート 4 地点	■稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 (大気質：1週間、交通量：1日) 大気質：令和6年10月10日～10月16日 交通量：令和6年10月15日（火）6：00～10月16日（水）6：00
騒音	施設関連車両の走行に伴う騒音	騒音レベル 交通量	主要走行ルート 5 地点	■稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 騒音・交通量 ：令和6年10月15日（火）6：00～10月16日（水）6：00
振動	施設関連車両の走行に伴う振動	振動レベル 交通量	主要走行ルート 5 地点	■稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 振動・交通量 ：令和6年10月15日（火）6：00～10月16日（水）6：00

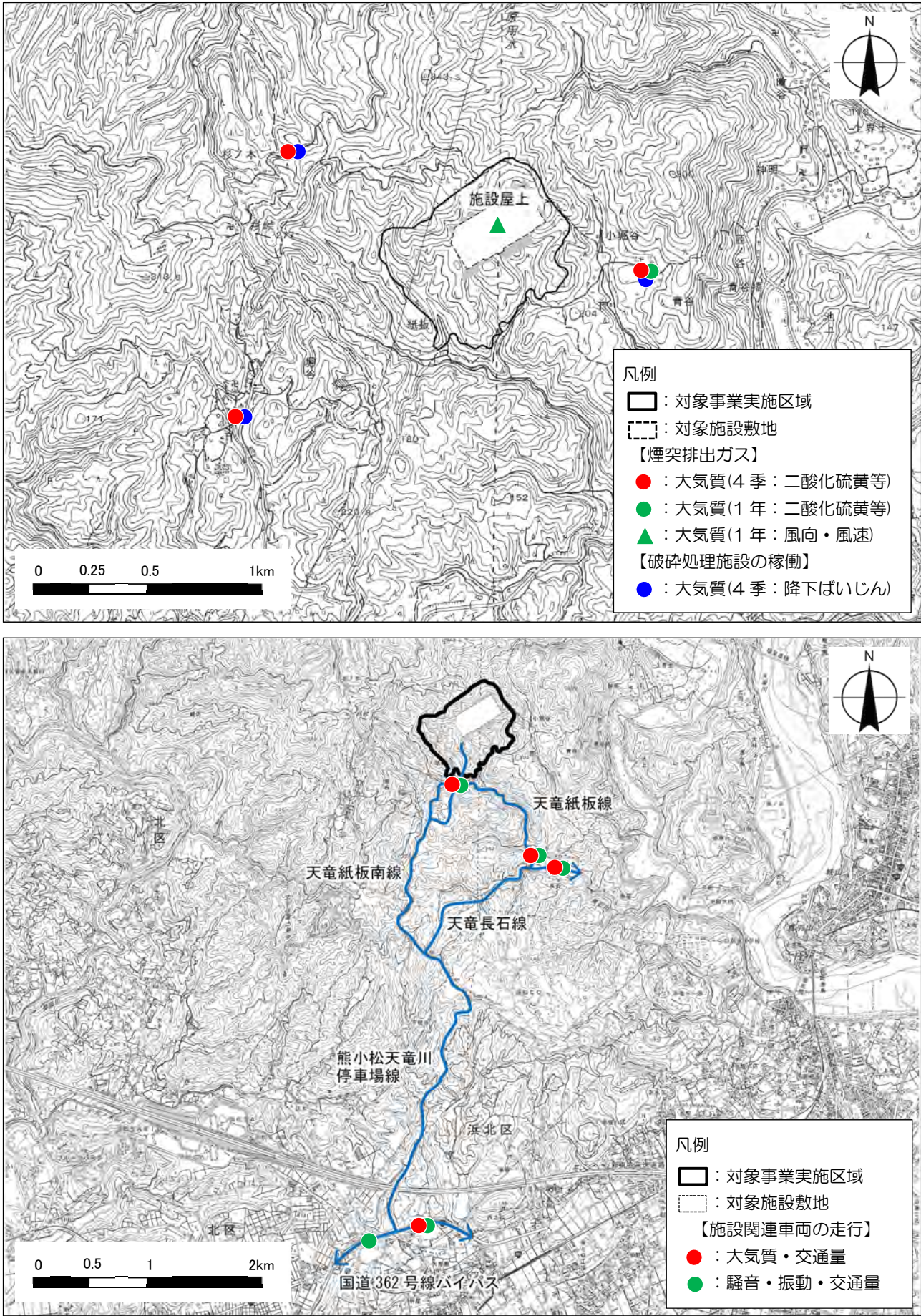


図 事後調査地点〔環境調査（大気質・騒音・振動）〕

調査項目			調査地点	調査時期・期間
水質	排出水に伴う水の汚れ	水素イオン濃度(pH) 溶存酸素量(DO) 生物化学的酸素要求量(BOD) 水温	・長石川上流2地点 ・調整池堰堤下流2地点 ・区域内直下の沢1地点	■稼働後施設定常稼働時 夏季：令和6年 8月9日 冬季：令和7年 2月18日
	排出水に伴う水の濁り	浮遊物質(SS)	・長石川上流2地点 ・調整池堰堤下流2地点 ・区域内直下の沢1地点	■稼働後施設定常稼働時 (降雨中) 1回目：令和6年 10月3日～10月4日 2回目：令和6年 11月2日～11月3日
動物	施設の存在	注目すべき種の生息状況 (アズマヒキガエルの産卵状況)	湧水湿地 (貧養地小型植物群落)	■施設完成後 アズマヒキガエルの産卵時期 令和7年 3月14日 3月17日 3月18日
		アズマヒキガエル (生息状況)	調整池周辺に創出した湿地環境	■施設完成後 アズマヒキガエルの産卵時期 令和7年 2月26日 3月11日 3月18日
植物	施設の存在	注目すべき種の生育状況	湧水湿地 (貧養地小型植物群落)	■施設完成後 令和6年 7月17日、9月19日
		移植した注目すべき植物の生育状況	植物の移植先	■施設完成後 ホナガタツナミソウ 令和6年 6月24日 エビネ 令和6年 5月21日 タチキランソウ 令和6年 4月21日 ウスギムヨウラン 令和6年 5月21日
		植生の状況	調整池周辺に創出した湿地環境及び周辺樹林	■創出した湿地環境(植生)の安定性を踏まえ、令和8年度と令和11年度に実施(変更)

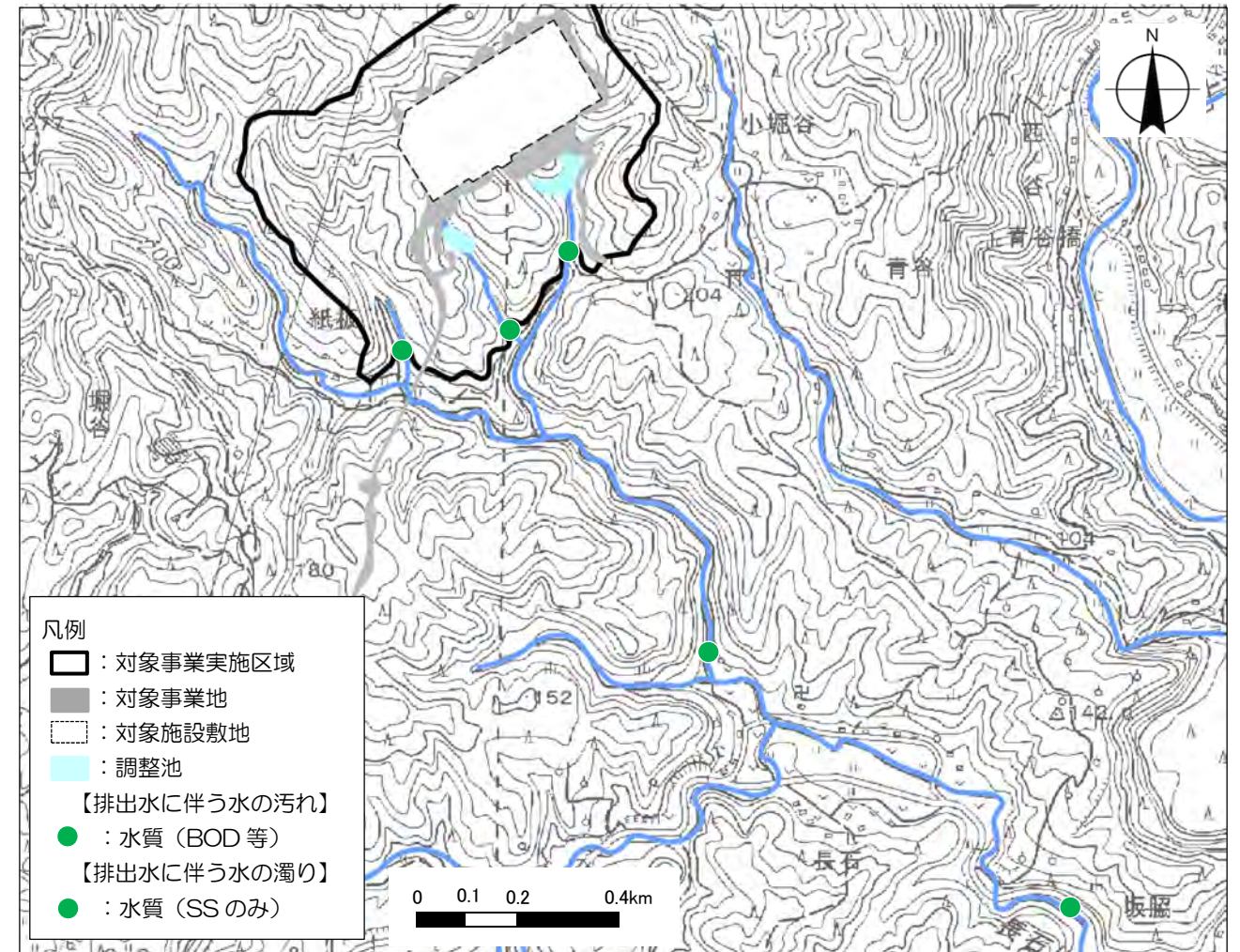


表 事後調査の実施概要〔環境調査（生態系・景観・
人と自然との触れ合いの活動の場・地球環境・光害・地域交通）〕

調査項目			調査地点	調査時期・期間
生態系	施設の存在	希少猛禽類 （主にクマタカ）	対象事業実施区域及びその端部から約1.0kmの範囲周辺	■施設完成後、猛禽類の繁殖期 行動確認調査 令和6年 2月1日、2月2日、3月7日、3月8日、 4月4日、4月5日、5月27日、5月28日、 5月29日、6月7日、6月24日、6月25日、 7月25日、7月26日、9月4日、9月5日、 令和7年 2月6日、2月7日、3月6日、3月7日 営巣地調査 令和6年 11月15日
		指標種の生息・生育状況	調整池周辺に創出した湿地環境	■創出した湿地環境（植生）の安定性を踏まえ、令和8年度と令和11年度に実施(変更)
			湧水湿地 （貧養地小型植物群落）	■施設完成後 夏季：令和6年 7月17日 秋季：令和6年 9月19日
景観	眺望景観の変化	主要な眺望点からの景観	主要眺望点 5地点	■施設竣工後 夏季：令和6年 8月8日、8月9日 冬季：令和7年 2月19日
人と自然との触れ合いの活動の場	施設関連車両の走行に伴う人と自然との触れ合いの活動の場への影響	利用状況	森林公園内の1カ所	■稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 アンケート調査 令和6年 10月15日（火） 7：00～18：00
地球環境	廃棄物処理量への影響	廃棄物処理量の発生量及び種類	—	■稼働後1年間 定常稼働時 対象期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日
	温室効果ガスの発生量	電気及び燃料の使用量		
光害	照度の変化	事業地周辺での照度の変化	事業地周辺 3地点	■施設竣工後 夏季 満月時：令和6年7月21日 新月時：令和6年8月2日
地域交通	施設関連車両の走行に伴う交通量及び交差点需要率への影響	交通量 渋滞長及び滞留長 信号のサイクル長	主要走行ルート 3地点	■稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 令和6年10月15日（火） 7：00～18：00

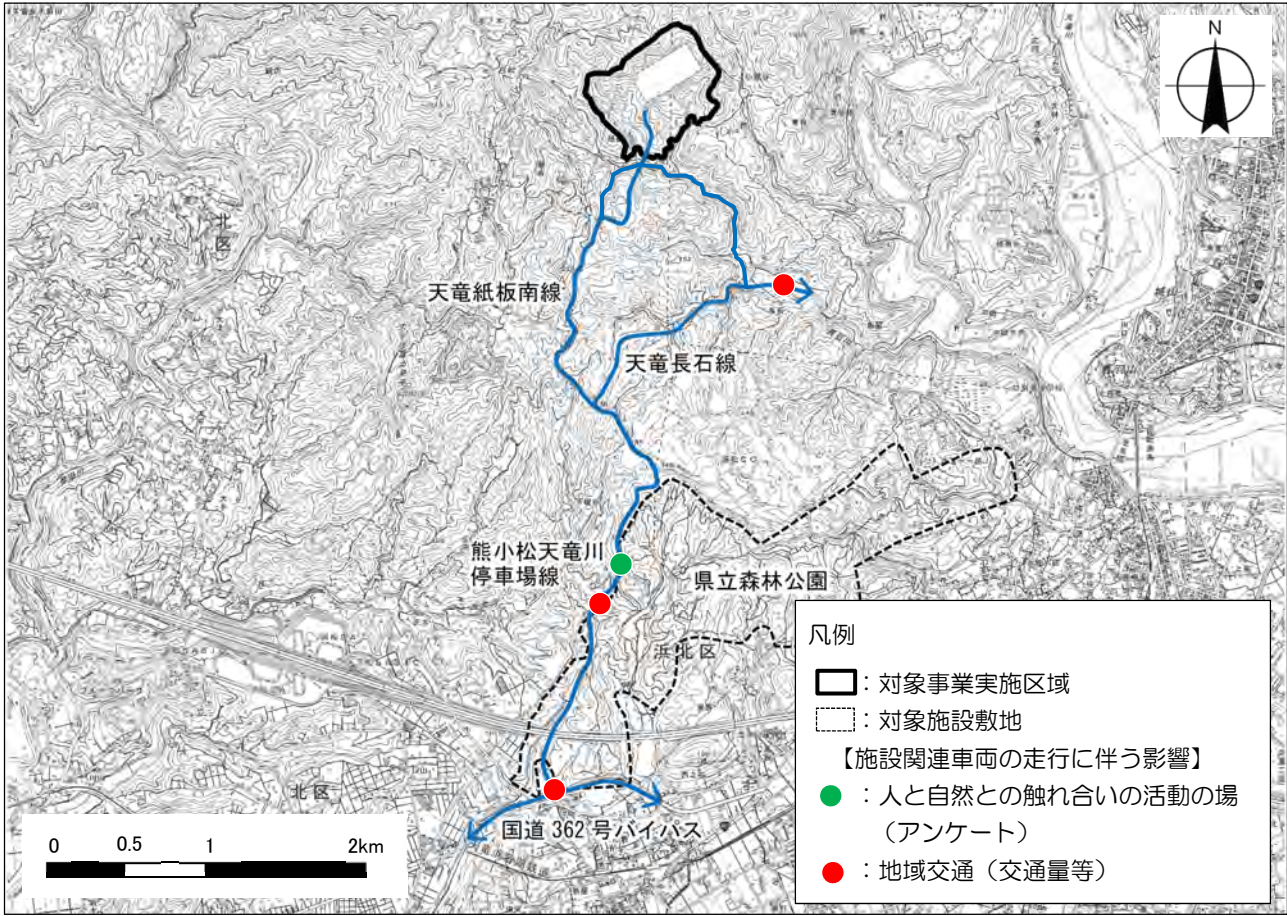
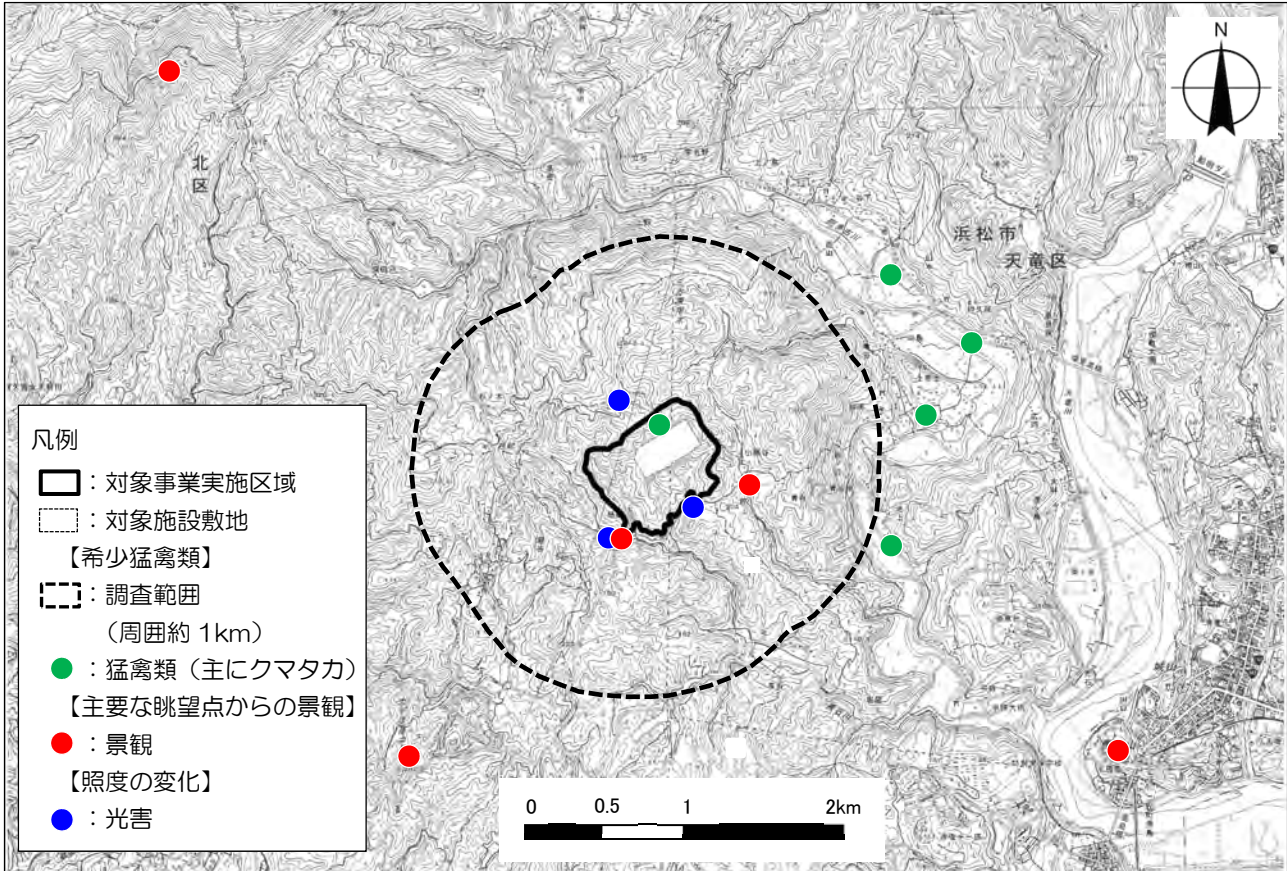


図 事後調査地点〔環境調査（生態系・景観・人と自然との触れ合いの活動の場
・地球環境・光害・地域交通）〕

2. 事後調査結果

2-1 発生源強度確認調査

1) ばい煙調査

① 調査概要

項目	内 容			
調査項目	硫黄酸化物、ばいじん、窒素酸化物、塩化水素、水銀、ダイオキシン類			
調査方法	大気汚染防止法、ダイオキシン類対策特別措置法、JIS に定める方法等			
調査地点	煙突（1号炉、2号炉）			
調査時期	【硫黄酸化物、ばいじん、窒素酸化物、塩化水素、水銀、ダイオキシン類】			
		[1号炉]		[2号炉]
	夏季	令和6年 7月29日	令和6年 7月30日	
	秋季	令和6年10月11日	令和6年10月10日	
	冬季	令和7年 2月 3日	令和6年 2月10日	
	春季	令和7年 4月15日	令和7年 3月11日	
	【硫黄酸化物、ばいじん、窒素酸化物、塩化水素】			
		[1号炉]		[2号炉]
	秋季	令和6年11月28日	令和6年11月29日	
春季	令和7年 4月30日	令和7年 5月 1日		

② 調査結果

【1号炉：夏季・秋季】

項目	単位	調査結果			基準値 (自主規制値)
		夏季	秋季		
		7月29日	10月11日	11月28日	
ばいじん	g/m ³	0.0008未満	0.0008未満	0.0007未満	0.01
窒素酸化物	ppm	33	38	37	50
硫黄酸化物	ppm	0.8未満	0.8未満	0.8未満	50
塩化水素	ppm	21	16	23	45
水銀	mg/m ³	0.00066	0.00032	—	0.03
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.00790	0.00082	—	0.01

注）表中の値は標準酸素（12％）補正濃度を示す。

【1号炉：冬季・春季】

項目	単位	調査結果			基準値 (自主規制値)
		冬季	春季		
		2月3日	4月15日	4月30日	
ばいじん	g/m ³	0.0008未満	0.0008未満	0.0008未満	0.01
窒素酸化物	ppm	33	32	26	50
硫黄酸化物	ppm	0.8未満	0.8未満	0.8未満	50
塩化水素	ppm	18	21	27	45
水銀	mg/m ³	0.00025	0.00011	—	0.03
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.00051	0.00170	—	0.01

注）表中の値は標準酸素（12％）補正濃度を示す。

【2号炉：夏季・秋季】

項目	単位	調査結果			基準値 (自主規制値)
		夏季	秋季		
		7月30日	10月10日	11月29日	
ばいじん	g/m ³	0.0008未満	0.0008未満	0.0008未満	0.01
窒素酸化物	ppm	37	38	31	50
硫黄酸化物	ppm	0.8未満	0.8未満	0.8未満	50
塩化水素	ppm	13	20	18	45
水銀	mg/m ³	0.00100	0.00051	—	0.03
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.00140	0.00036	—	0.01

注）表中の値は標準酸素（12％）補正濃度を示す。

【2号炉：冬季・春季】

項目	単位	調査結果			基準値 (自主規制値)
		冬季	春季		
		2月10日	3月11日	5月1日	
ばいじん	g/m ³	0.0008未満	0.0008未満	0.0008未満	0.01
窒素酸化物	ppm	16	34	37	50
硫黄酸化物	ppm	0.8未満	0.8未満	0.8未満	50
塩化水素	ppm	22	14	32	45
水銀	mg/m ³	0.00045	0.00050	—	0.03
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.00120	0.00600	—	0.01

注）表中の値は標準酸素（12％）補正濃度を示す。

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
排出ガス 濃度	施設稼働に伴い煙突から排出されるばい煙の調査結果は以下のとおり、1号炉及び2号炉ともに全て自主規制値以下であった。 【1号炉】 ばいじん：0.0008 g/m ³ 未満 窒素酸化物：26～38 ppm 硫黄酸化物：0.8 ppm未満 塩化水素：16～27 ppm 水銀：0.00025～0.00066 mg/m ³ ダイオキシン類：0.00051～0.00790 ng-TEQ/m ³ 【2号炉】 ばいじん：0.0008 g/m ³ 未満 窒素酸化物：16～38 ppm 硫黄酸化物：0.8 ppm未満 塩化水素：13～32 ppm 水銀：0.00045～0.00100 mg/m ³ ダイオキシン類：0.00036～0.00600 ng-TEQ/m ³	評価書において設定した煙突の排出ガス諸元及び自主規制値は以下のとおりである。 【排出ガス諸元・自主規制値】 ばいじん：0.01 g/m ³ 窒素酸化物：50 ppm 硫黄酸化物：50 ppm 塩化水素：45 ppm 水銀：0.03 mg/m ³ ダイオキシン類：0.01 ng-TEQ/m ³

2) 施設稼働騒音及び低周波音

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	施設稼働騒音：騒音レベル 施設稼働低周波音：低周波音圧レベル
調査方法	施設稼働騒音： 「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」に定める方法 施設稼働低周波音： 「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に定める方法
調査地点	敷地境界の3地点（No.1～3）
調査時期	稼働後施設定常稼働時 令和6年11月28日12:00 ～11月29日12:00

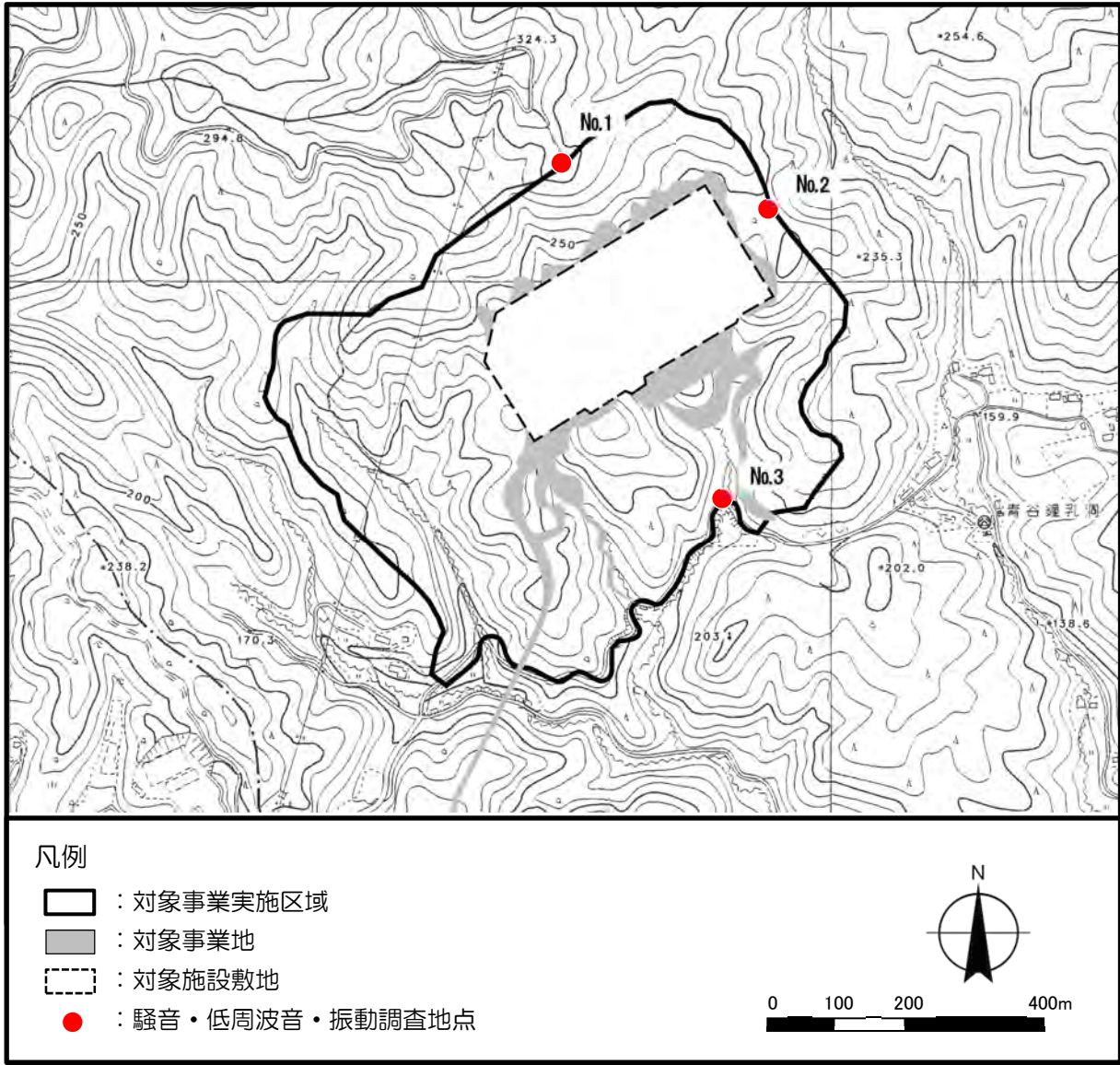


図 事後調査地点（騒音・低周波音・振動）

② 調査結果

単位：dB

項目	調査地点	時間率騒音レベル（L _{A5} ）				基準値 （L _{A5} ）	基準との 適合状況
		朝	昼間	夕	夜間		適:○ 否:×
騒音レベル	No.1	44	49	41	39	朝：50	○
	No.2	42	53	41	38	昼：55 夕：50	○
	No.3	43	44	43	42	夜：45	○

注 1）時間の区分は、朝 6～8 時、昼間 8～18 時、夕 18～22 時、夜間 22 時～翌日 6 時である。

注 2）基準値は本施設における公害防止基準（敷地境界上）を示す。

単位：dB

項目	調査地点	G 特性音圧レベル(L _{G5})	参考指標(L _{G5})
低周波音 レベル	No.1	69	100dB 以下
	No.2	84	
	No.3	70	

注）参考指標は、ISO 7196 による低周波音の参考指標 L_{G5} の値を示す。

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
騒音レベル	施設稼働に伴う騒音の調査結果（L _{A5} ）は、朝の時間帯は 42～44dB、昼間は 44～53dB、夕は 41～43dB、夜間は 38～42dB であり、全ての時間帯において公害防止基準値以下であった。 なお、調査結果については予測値を上回る傾向を示したが、要因としては調査当日の暗騒音の影響等が考えられる。	施設稼働に伴う敷地境界付近の騒音レベル（L _{A5} ）の最大値は、昼間（焼却施設＋破砕処理施設）は 37.0dB、夜間（焼却施設）は 36.2dB と予測され、特定工場等に係る騒音の規制基準値以下と予測される。 【規制基準】（公害防止基準値） 朝・夕：50dB 昼間：55dB 夜間：45dB
低周波音 レベル	施設稼働に伴う低周波音の調査結果（L _{G5} ）は、No.2 の 84dB が最も大きく、No.1 は 69dB、No.3 は 70dB であり、低周波音の参考指標及び予測結果を下回った。	施設稼働に伴う敷地境界付近の低周波音レベル（L _{G5} ）の最大値は 84.2dB と予測され、ISO 7196 による低周波音の参考指標以下と予測される。 【参考指標】 L _{G5} ：100dB 以下

3) 施設稼働振動

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	施設稼働振動：振動レベル
調査方法	施設稼働振動： 「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」に定める方法
調査地点	敷地境界の3地点（No.1～3） ※騒音と同地点（p.8参照）
調査時期	稼働後施設定常稼働時 令和6年11月28日12:00 ～11月29日12:00

② 調査結果

項目	調査地点	時間率振動レベル（L ₁₀ ）		基準値 （L ₁₀ ）	基準との 適合状況 適:○ 否:×
		昼間	夜間		
振動レベル	No.1	<25	<25	昼間：65 夜間：55	○
	No.2	<25	<25		○
	No.3	31	32		○

注 1) 表中の「< 25」は、振動レベル計の測定下限値(25dB)未満であることを示す。
注 2) 時間の区分は、昼間 8 時～20 時、夜間 20 時～翌日 8 時である。
注 3) 基準値は本施設における公害防止基準（敷地境界上）を示す。

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
振動レベル	施設稼働に伴う振動の調査結果（L ₁₀ ）は、昼間の時間帯は 25～31dB、夜間は 25～32dB であり、全ての時間帯において公害防止基準値及び予測結果を下回った。	施設稼働に伴う敷地境界付近の振動レベル（L ₁₀ ）の最大値は、昼間（焼却施設＋破碎処理施設）は 51.1dB、夜間（焼却施設）は 43.7dB と予測され、特定工場等に係る振動の規制基準値以下と予測される。 【規制基準】（公害防止基準値） 昼間：65dB 夜間：55dB

4) 施設からの悪臭

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	特定悪臭物質、臭気指数
調査方法	特定悪臭物質：「特定悪臭物質の測定の方法」に定める方法 臭気指数：「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」に定める方法
調査地点	敷地境界の2地点（No.1：風上、No.2：風下）及び煙突（1号炉、2号炉）
調査時期	稼働後施設定常稼働時 敷地境界：令和7年2月3日、煙突：令和6年10月10日

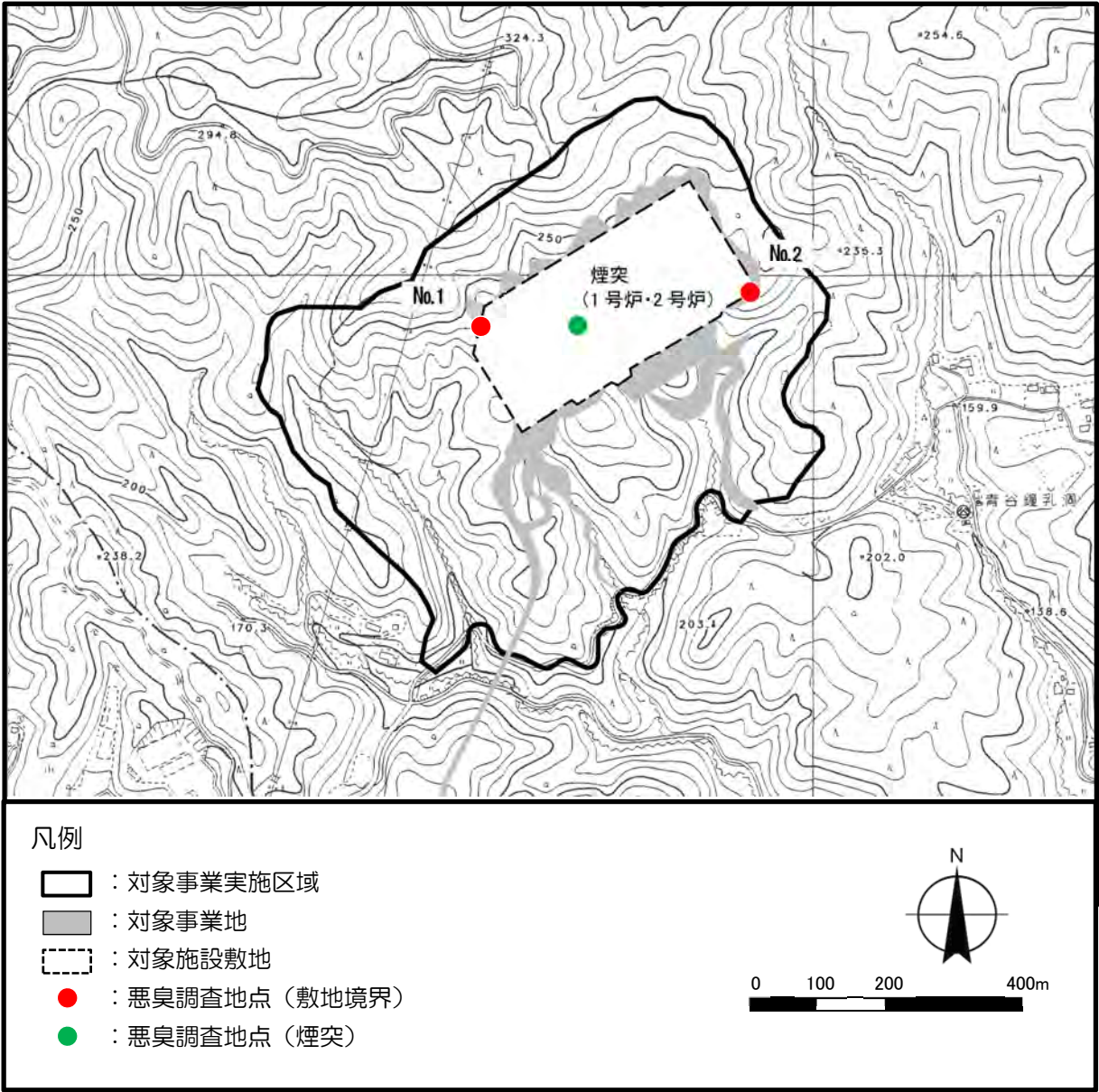


図 事後調査地点（悪臭）

② 調査結果

【敷地境界】

項目		単位	敷地境界上		基準値
			No.1（風上）	No.2（風下）	
特定悪臭物質	アンモニア	ppm	0.1 未満	0.1 未満	1
	メチルメルカプタン	ppm	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002
	硫化水素	ppm	0.002 未満	0.002 未満	0.02
	硫化メチル	ppm	0.001 未満	0.001 未満	0.01
	二硫化メチル	ppm	0.0009 未満	0.0009 未満	0.009
	トリメチルアミン	ppm	0.0005 未満	0.0005 未満	0.005
	アセトアルデヒド	ppm	0.005 未満	0.005 未満	0.05
	プロピオンアルデヒド	ppm	0.005 未満	0.005 未満	0.05
	ノルマルブチルアルデヒド	ppm	0.0009 未満	0.0009 未満	0.009
	イソブチルアルデヒド	ppm	0.002 未満	0.002 未満	0.02
	ノルマルバレルアルデヒド	ppm	0.0009 未満	0.0009 未満	0.009
	イソバレルアルデヒド	ppm	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003
	イソブタノール	ppm	0.09 未満	0.09 未満	0.9
	酢酸エチル	ppm	0.3 未満	0.3 未満	3
	メチルイソブチルケトン	ppm	0.1 未満	0.1 未満	1
	トルエン	ppm	1 未満	1 未満	10
	スチレン	ppm	0.04 未満	0.04 未満	0.4
	キシレン	ppm	0.1 未満	0.1 未満	1
	プロピオン酸	ppm	0.003 未満	0.003 未満	0.03
	ノルマル酪酸	ppm	0.0001 未満	0.0001 未満	0.001
	ノルマル吉草酸	ppm	0.00009 未満	0.00009 未満	0.0009
	イソ吉草酸	ppm	0.0001 未満	0.0001 未満	0.0001
臭気濃度		—	10 未満	10 未満	—
臭気指数		—	10 未満	10 未満	13

注）臭気指数及び特定悪臭物質の基準値は本施設における公害防止基準（敷地境界上）を示す。
なお、本施設が位置する浜松市は臭気指数によって規制を行っている。

【煙突排出口】

項目		単位	煙突排出口			
			1 号炉	基準値	2 号炉	基準値
特定悪臭物質	アンモニア	m³/h	0.043 未満	690	0.041 未満	680
	硫化水素	m³/h	0.00086 未満	13	0.00081 未満	13
	トリメチルアミン	m³/h	0.00022 未満	3.4	0.00021 未満	3.4
	プロピオンアルデヒド	m³/h	0.0022 未満	34	0.0021 未満	34
	ノルマルブチルアルデヒド	m³/h	0.00039 未満	6.2	0.00037 未満	6.2
	イソブチルアルデヒド	m³/h	0.00086 未満	13	0.00081 未満	13
	ノルマルバレルアルデヒド	m³/h	0.00039 未満	6.2	0.00037 未満	6.1
	イソバレルアルデヒド	m³/h	0.00013 未満	2.0	0.00013 未満	2.0
	イソブタノール	m³/h	0.039 未満	620	0.037 未満	610
	酢酸エチル	m³/h	0.013 未満	2000	0.013 未満	2000
	メチルイソブチルケトン	m³/h	0.043 未満	690	0.041 未満	680
	トルエン	m³/h	0.43 未満	6900	0.41 未満	680
	キシレン	m³/h	0.043 未満	690	0.041 未満	680
臭気濃度		—	1600	—	4000	—
臭気指数		—	32	52	36	52

注）臭気指数の基準値は、本施設における公害防止基準（煙突排出口）を示す。
特定悪臭物質の基準値は、静岡県告示 A 区域の基準値から算出した値を参考として記載した。
なお、本施設が位置する浜松市は臭気指数によって規制を行っている。

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
臭気指数	施設稼働に伴う悪臭の調査結果は、敷地境界の臭気指数において、No.1（風上）及び No.2（風下）ともに 10 未満であり、予測結果のとおり公害防止基準値を下回った。	施設稼働に伴う悪臭の臭気濃度及び臭気指数は、敷地境界において 10 未満と予測され、悪臭防止法に基づく規制基準値以下と予測される。 【規制基準】（公害防止基準値） 臭気指数 13（敷地境界）

2-2 環境調査

(1) 大気質

1) 煙突から排出される大気汚染物質（事業地周辺）

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、ダイオキシン類、塩化水素、水銀、風向・風速
調査方法	二酸化硫黄：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める方法 二酸化窒素：「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）に定める方法 浮遊粒子状物質：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める方法 微小粒子状物質：「微小粒子状物質による大気汚染に係る環境基準について」（平成21年環境省告示第33号）に定める方法 ダイオキシン類：「ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル」（令和4年3月環境省 水・大気環境局）に定める方法 塩化水素：「大気汚染物質測定法指針」（昭和63年環境庁大気保全局）に定める方法 水銀：「有害大気汚染物質等測定方法マニュアル」（平成31年3月（令和6年3月改訂）環境省 水・大気環境局）に定める方法 風向・風速：「地上気象観測指針」（平成14年気象庁）に定める方法
調査地点	対象事業実施区域周辺の3地点：大気質（TK-1～3）、風向・風速（KS-1～3）
調査時期	稼働後施設定常稼働時 夏季：令和6年7月27日～8月2日 秋季：令和6年10月10日～10月16日 冬季：令和7年2月14日～2月20日 春季：令和7年3月12日～3月18日

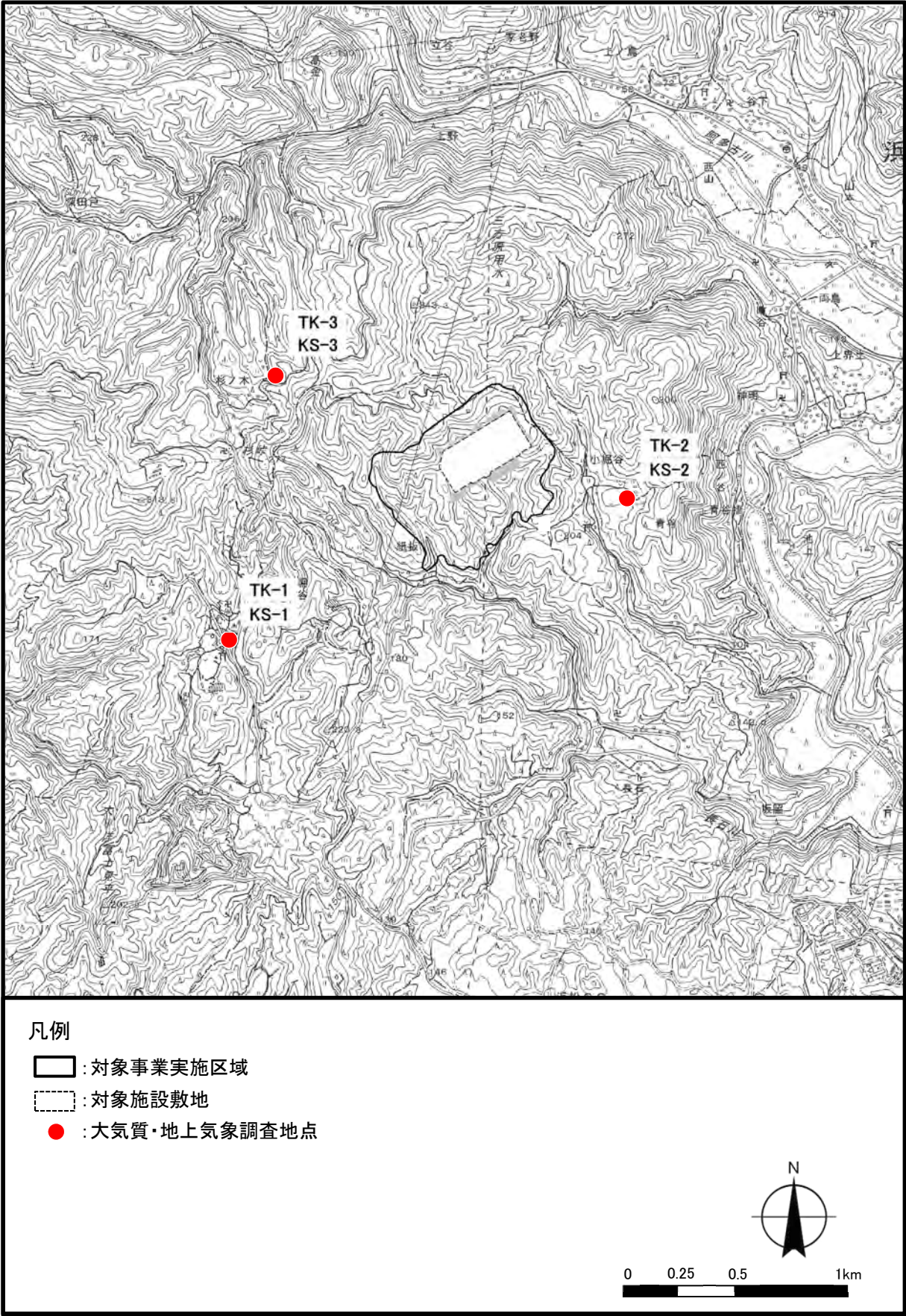


図 事後調査地点（大気質）

② 調査結果

項目	調査地点	調査時期	期 間 平 均 値 (ppm)	1 時間値		日 平 均 値		環境基準と の適合状況 適○ 否×
				最高値 (ppm)	0.1ppm を超えた 時間数 (時間)	最高値 (ppm)	0.04ppm を超えた 日数 (日)	
二酸化硫黄	TK-1	夏季	0.001	0.002	0	0.001	0	○
		秋季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		冬季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		春季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		四季	0.000	0.002	0	0.001	0	○
	TK-2	夏季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		秋季	0.000	0.002	0	0.000	0	○
		冬季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		春季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		四季	0.000	0.002	0	0.000	0	○
	TK-3	夏季	0.000	0.002	0	0.000	0	○
		秋季	0.001	0.004	0	0.002	0	○
		冬季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		春季	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		四季	0.000	0.004	0	0.002	0	○

項目	調査地点	調査時期	期 間 平 均 値 (mg/m³)	1 時間値		日 平 均 値		環境基準と の適合状況 適○ 否×
				最高値 (mg/m³)	0.20mg/m³ を超えた時 間数 (時間)	最高値 (mg/m³)	0.10mg/m³ を超えた 日数 (日)	
浮遊粒子状 物質	TK-1	夏季	0.014	0.044	0	0.020	0	○
		秋季	0.010	0.025	0	0.012	0	○
		冬季	0.006	0.021	0	0.010	0	○
		春季	0.006	0.025	0	0.013	0	○
		四季	0.009	0.044	0	0.020	0	○
	TK-2	夏季	0.015	0.027	0	0.021	0	○
		秋季	0.012	0.026	0	0.014	0	○
		冬季	0.006	0.022	0	0.011	0	○
		春季	0.007	0.025	0	0.016	0	○
		四季	0.010	0.027	0	0.021	0	○
	TK-3	夏季	0.014	0.029	0	0.020	0	○
		秋季	0.009	0.015	0	0.011	0	○
		冬季	0.006	0.022	0	0.009	0	○
		春季	0.006	0.024	0	0.014	0	○
		四季	0.009	0.029	0	0.020	0	○

項目	調査地点	調査時期	期 間 平 均 値 (ppm)	1 時間 値の最 高値 (ppm)	日 平 均 値			環境基準と の適合状況 適○ 否×
					最高値 (ppm)	0.04ppm 以 上 0.06ppm 以下の日数 (日)	0.06ppm を超えた日 数 (日)	
二酸化窒素	TK-1	夏季	0.001	0.004	0.002	0	0	○
		秋季	0.002	0.005	0.002	0	0	○
		冬季	0.001	0.004	0.002	0	0	○
		春季	0.001	0.008	0.002	0	0	○
		四季	0.001	0.008	0.002	0	0	○
	TK-2	夏季	0.002	0.004	0.002	0	0	○
		秋季	0.001	0.005	0.002	0	0	○
		冬季	0.002	0.005	0.003	0	0	○
		春季	0.002	0.006	0.003	0	0	○
		四季	0.002	0.006	0.003	0	0	○
	TK-3	夏季	0.002	0.006	0.003	0	0	○
		秋季	0.002	0.011	0.003	0	0	○
		冬季	0.001	0.004	0.002	0	0	○
		春季	0.002	0.011	0.003	0	0	○
		四季	0.002	0.011	0.003	0	0	○

項目	調査地点	調査時期	期 間 平 均 値 (μg/m³)	1 時間値	日 平 均 値		環境基準と の適合状況 適○ 否×
				最高値 (μg/m³)	最高値 (μg/m³)	35μg/m³を 超えた日数 (日)	
微小粒子状 物質	TK-1	夏季	8	16	12	0	○
		秋季	7	17	9	0	○
		冬季	4	18	7	0	○
		春季	4	18	10	0	○
		四季	6	18	12	0	○
	TK-2	夏季	8	20	12	0	○
		秋季	6	18	8	0	○
		冬季	6	22	11	0	○
		春季	5	19	11	0	○
		四季	6	22	12	0	○
	TK-3	夏季	9	24	14	0	○
		秋季	6	15	8	0	○
		冬季	3	13	6	0	○
		春季	6	22	12	0	○
		四季	6	24	14	0	○

項目	調査地点	調査時期	期間平均値 (pg-TEQ/m ³)	環境基準との適合状況 適○ 否×
ダイオキシン類	TK-1	夏季	0.0038	○
		秋季	0.0026	○
		冬季	0.0032	○
		春季	0.0024	○
		四季	0.0030	○
	TK-2	夏季	0.0036	○
		秋季	0.0085	○
		冬季	0.0024	○
		春季	0.0021	○
		四季	0.0042	○
	TK-3	夏季	0.0029	○
		秋季	0.0022	○
		冬季	0.0024	○
		春季	0.0022	○
		四季	0.0024	○

項目	調査地点	調査時期	期間平均値 (ppm)	目標環境濃度との適合状況 適○ 否×
塩化水素	TK-1	夏季	<0.001	○
		秋季	<0.001	○
		冬季	<0.001	○
		春季	<0.001	○
		四季	<0.001	○
	TK-2	夏季	<0.001	○
		秋季	<0.001	○
		冬季	<0.001	○
		春季	<0.001	○
		四季	<0.001	○
	TK-3	夏季	<0.001	○
		秋季	<0.001	○
		冬季	<0.001	○
		春季	<0.001	○
		四季	<0.001	○

項目	調査地点	調査時期	期間平均値 (μg/m ³)	目標環境濃度との適合状況 適○ 否×
水銀	TK-1	夏季	0.0011	○
		秋季	0.0011	○
		冬季	0.0014	○
		春季	0.0015	○
		四季	0.0013	○
	TK-2	夏季	0.0013	○
		秋季	0.0011	○
		冬季	0.0013	○
		春季	0.0013	○
		四季	0.0013	○
	TK-3	夏季	0.0013	○
		秋季	0.0011	○
		冬季	0.0015	○
		春季	0.0014	○
		四季	0.0013	○

項目	調査地点	調査時期	平均風速 (m/s)	最多風向 (16 方位)	最大風速 (m/s)	最大風速時の風向 (16 方位)
風向・風速	TK-1	夏季	0.6	NE	2.8	NE
		秋季	0.6	NNE	1.9	NE
		冬季	1.2	NE	3.2	NNE
		春季	1.0	NE	3.7	NE
		四季	1.0	NE	3.7	NE
	TK-2	夏季	1.0	NW	3.7	NW
		秋季	0.8	N	2.2	NW
		冬季	1.6	WNW	3.9	WSW
		春季	1.0	ESE	3.5	ESE
	TK-3	夏季	0.5	ENE	1.9	ESE
		秋季	0.2	NNW	1.1	NNW
		冬季	0.9	NNE	2.1	NE、ESE
		春季	0.6	NE	2.0	E、NE

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
二酸化硫黄	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化硫黄の調査結果は以下のとおり、全ての地点において環境基準値及び予測結果以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：0.000ppm TK-2（小堀谷）：0.000ppm TK-3（杉ノ本）：0.000ppm 【日平均値の最高値】 TK-1（堀谷）：0.001ppm TK-2（小堀谷）：0.000ppm TK-3（杉ノ本）：0.002ppm	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化硫黄の将来予測濃度は以下のとおり、全ての地点において環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TK-1（堀谷）：0.0022ppm TK-2（小堀谷）：0.0030ppm TK-3（杉ノ本）：0.0012ppm 【日平均値】 TK-1（堀谷）：0.0046ppm TK-2（小堀谷）：0.0060ppm TK-3（杉ノ本）：0.0029ppm
二酸化窒素	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化窒素の調査結果は以下のとおり、全ての地点において環境基準値及び予測結果以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：0.001ppm TK-2（小堀谷）：0.002ppm TK-3（杉ノ本）：0.002ppm 【日平均値の最高値】 TK-1（堀谷）：0.002ppm TK-2（小堀谷）：0.003ppm TK-3（杉ノ本）：0.003ppm	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化窒素の将来予測濃度は以下のとおり、全ての地点において環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TK-1（堀谷）：0.0023ppm TK-2（小堀谷）：0.0042ppm TK-3（杉ノ本）：0.0024ppm 【日平均値】 TK-1（堀谷）：0.0087ppm TK-2（小堀谷）：0.0116ppm TK-3（杉ノ本）：0.0088ppm
浮遊粒子状物質	施設稼働に伴い煙突から排出される浮遊粒子状物質の調査結果は以下のとおり、全ての地点において環境基準値以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：0.009mg/m ³ TK-2（小堀谷）：0.010mg/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.009mg/m ³ 【日平均値の最高値】 TK-1（堀谷）：0.020mg/m ³ TK-2（小堀谷）：0.021mg/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.020mg/m ³	施設稼働に伴い煙突から排出される浮遊粒子状物質の将来予測濃度は以下のとおり、全ての地点において環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TK-1（堀谷）：0.0160mg/m ³ TK-2（小堀谷）：0.0152mg/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.0161mg/m ³ 【日平均値】 TK-1（堀谷）：0.0443mg/m ³ TK-2（小堀谷）：0.0432mg/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.0444mg/m ³

予測項目	事後調査結果	予測結果
微小粒子状物質	施設稼働に伴い煙突から排出される微小粒子状物質の調査結果は以下のとおり、全ての地点において環境基準値及び現況濃度（評価書）以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：6μg/m ³ TK-2（小堀谷）：6μg/m ³ TK-3（杉ノ本）：6μg/m ³ 【日平均値の最高値】 TK-1（堀谷）：12μg/m ³ TK-2（小堀谷）：12μg/m ³ TK-3（杉ノ本）：14μg/m ³	評価書では予測評価を行っていないため、現況濃度を以下に示す。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：10μg/m ³ TK-2（小堀谷）：10μg/m ³ TK-3（杉ノ本）：10μg/m ³ 【日平均値の最高値】 TK-1（堀谷）：27μg/m ³ TK-2（小堀谷）：23μg/m ³ TK-3（杉ノ本）：24μg/m ³
ダイオキシン類	施設稼働に伴い煙突から排出されるダイオキシン類の調査結果は以下のとおり、全ての地点において環境基準値以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：0.0030pg-TEQ/m ³ TK-2（小堀谷）：0.0042pg-TEQ/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.0024pg-TEQ/m ³	施設稼働に伴い煙突から排出されるダイオキシン類の将来予測濃度は以下のとおり、全ての地点において環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TK-1（堀谷）：0.0050pg-TEQ/m ³ TK-2（小堀谷）：0.0052pg-TEQ/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.0050pg-TEQ/m ³
塩化水素	施設稼働に伴い煙突から排出される塩化水素の調査結果は以下のとおり、全ての地点において目標環境濃度以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：0.001ppm 未満 TK-2（小堀谷）：0.001ppm 未満 TK-3（杉ノ本）：0.001ppm 未満 【最大日平均値】 TK-1（堀谷）：0.001ppm 未満 TK-2（小堀谷）：0.001ppm 未満 TK-3（杉ノ本）：0.001ppm 未満	施設稼働に伴い煙突から排出される塩化水素の将来予測濃度は以下のとおりと予測される。 【1 時間値】 最大着地地点濃度：0.0336ppm （接地逆転層崩壊時） 接地逆転層崩壊時に目標環境濃度（0.02ppm）を上回ると予測されたが、接地逆転層崩壊時はよく晴れた日の早朝の 1 時間程度であり、塩化水素の影響は限定的であると予測される。
水銀	施設稼働に伴い煙突から排出される水銀の調査結果は以下のとおり、全ての地点において目標環境濃度以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：0.0013μg/m ³ TK-2（小堀谷）：0.0013μg/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.0013μg/m ³	施設稼働に伴い煙突から排出される水銀の将来予測濃度は以下のとおり、目標環境濃度以下と予測される。 【年平均値】 TK-1（堀谷）：0.0013μg/m ³ TK-2（小堀谷）：0.0018μg/m ³ TK-3（杉ノ本）：0.0012μg/m ³

2) 煙突から排出される大気汚染物質（施設近接箇所）

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、風向・風速
調査方法	二酸化硫黄：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める方法 二酸化窒素：「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）に定める方法 浮遊粒子状物質：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める方法 微小粒子状物質：「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について」（平成21年環境省告示第33号）に定める方法 風向・風速：「地上気象観測指針」（平成14年気象庁）に定める方法
調査地点	施設近接箇所の各1地点：大気質（TK-4）、気象（KS-4）
調査時期	稼働後施設定常稼働時 通年：令和6年4月1日～令和7年3月31日

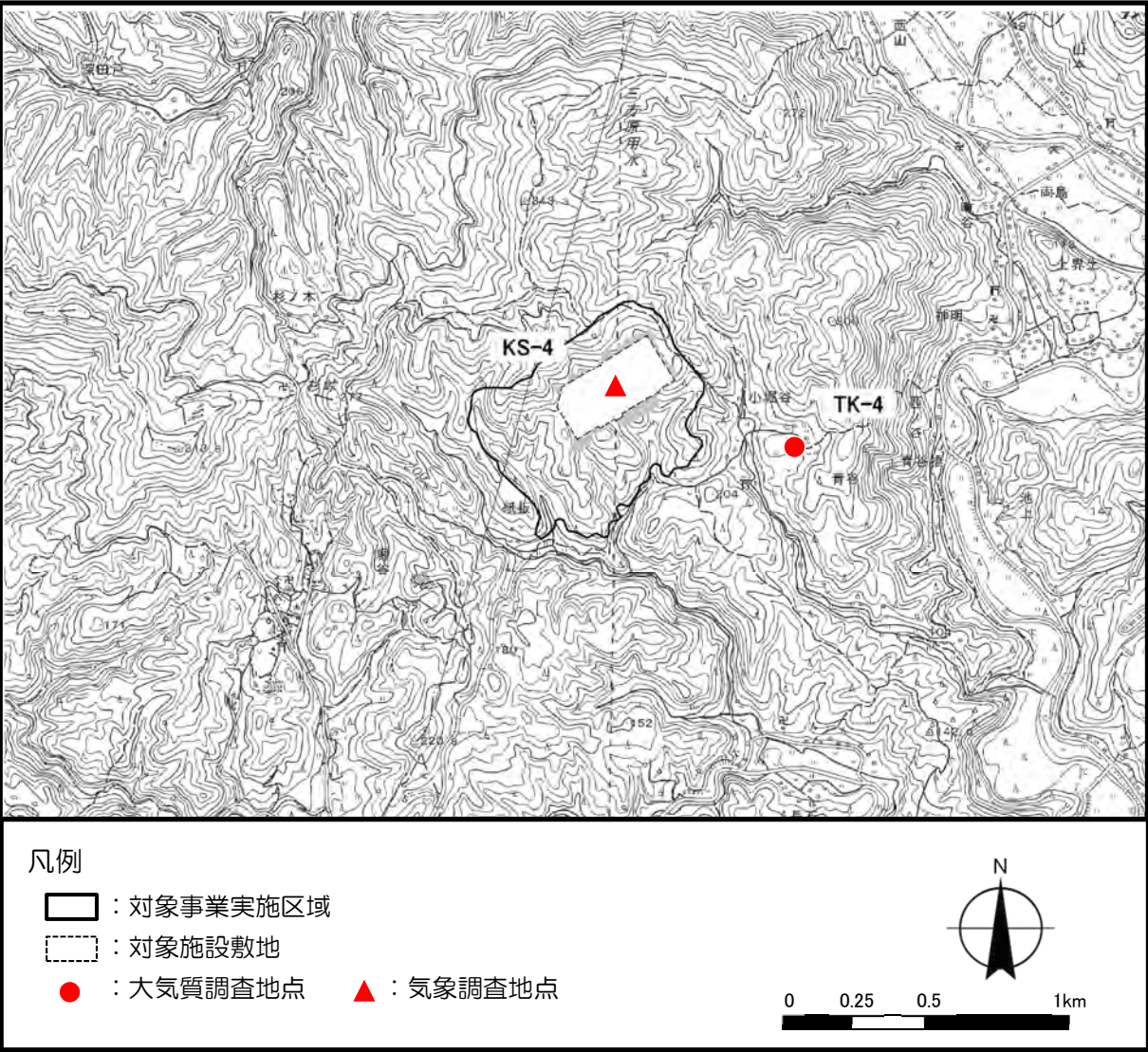
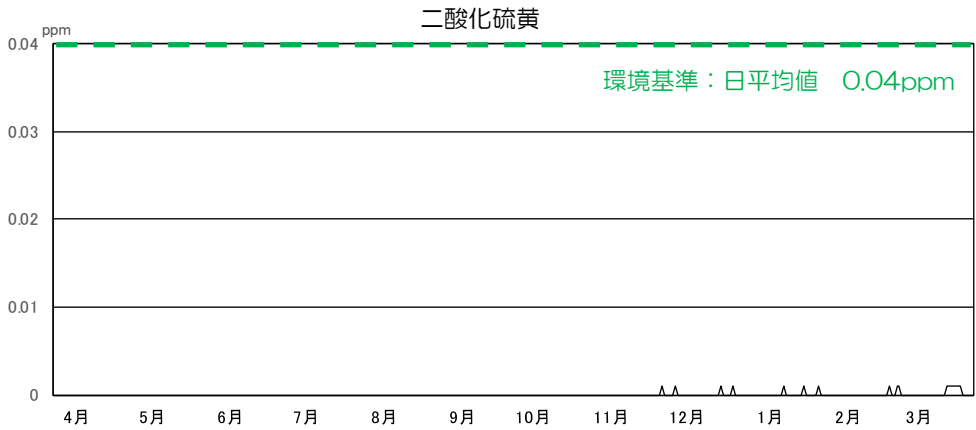


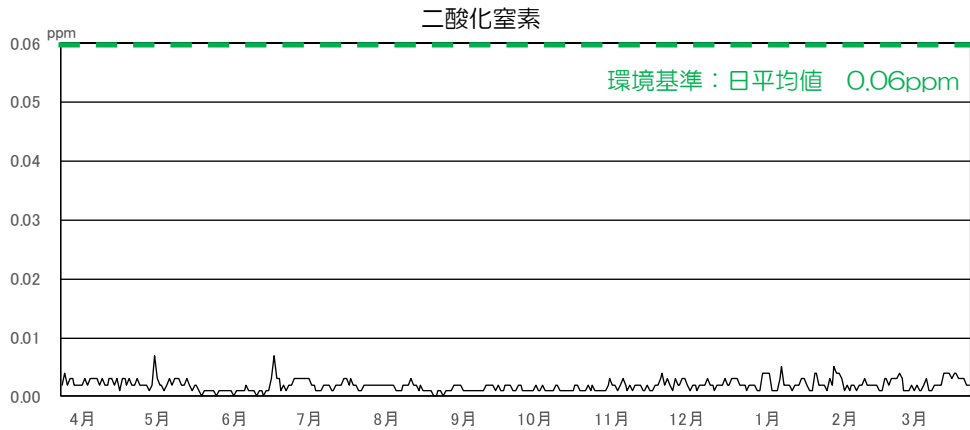
図 事後調査地点（大気質・気象）

② 調査結果

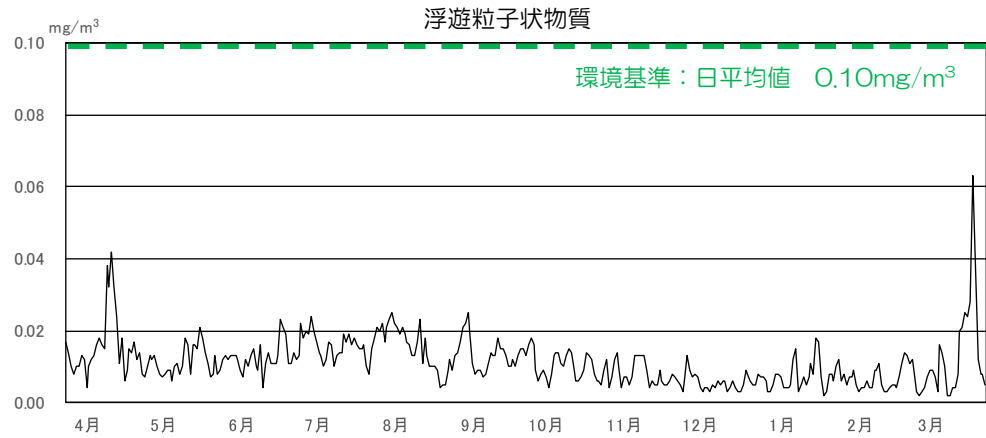
項目	調査地点	調査時期	期 間 平均値 (ppm)	1 時間値		日 平均値		環境基準と の適合状況 適○ 否×
				最高値 (ppm)	0.1ppm を超えた 時間数 (時間)	最高値 (ppm)	0.04ppm を超えた日 数 (日)	
二酸化 硫黄	TK-4	夏季 (6～8月)	0.000	0.001	0	0.000	0	○
		秋季 (9～11月)	0.000	0.002	0	0.001	0	○
		冬季 (12～2月)	0.000	0.002	0	0.001	0	○
		春季 (3～5月)	0.000	0.002	0	0.001	0	○
		通年 (4～3月)	0.000	0.002	0	0.001	0	○



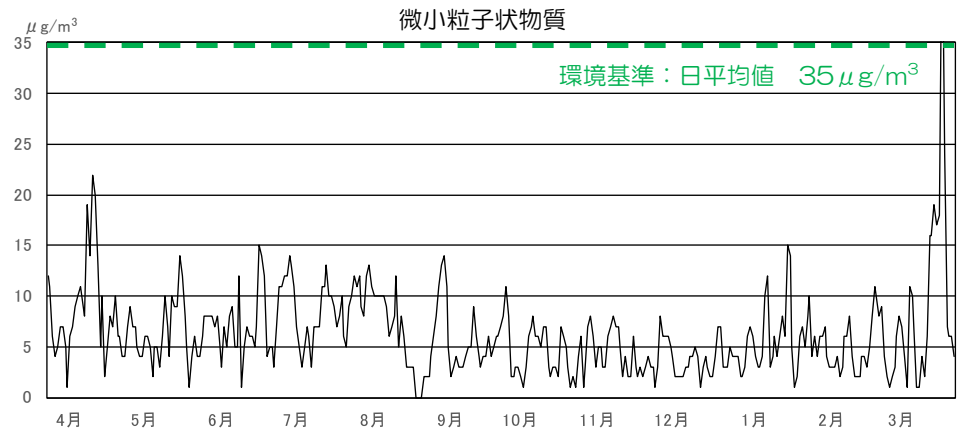
項目	調査地点	調査時期	期 間 平均値 (ppm)	1 時間値 の最高値 (ppm)	日 平均値			環境基準と の適合状況 適○ 否×
					最高値 (ppm)	0.04ppm 以 上 0.06ppm 以下の日数 (日)	0.06ppm を超えた日数 (日)	
二酸化 窒素	TK-4	夏季 (6～8月)	0.002	0.015	0.007	0	0	○
		秋季 (9～11月)	0.001	0.011	0.004	0	0	○
		冬季 (12～2月)	0.002	0.010	0.005	0	0	○
		春季 (3～5月)	0.002	0.016	0.007	0	0	○
		通年 (4～3月)	0.002	0.016	0.007	0	0	○



項目	調査地点	調査時期	期 間 平 均 値 (mg/m ³)	1 時間値		日 平 均 値		環境基準と の適合状況 適○ 否×
				最高値 (mg/m ³)	0.20mg/ m ³ を超え た時間数 (時間)	最高値 (mg/m ³)	0.10mg/ m ³ を超 えた日数 (日)	
浮遊粒 子状物 質	TK-4	夏季 (6～8 月)	0.015	0.066	0	0.025	0	○
		秋季 (9～11 月)	0.011	0.043	0	0.025	0	○
		冬季 (12～2 月)	0.006	0.036	0	0.018	0	○
		春季 (3～5 月)	0.013	0.162	0	0.063	0	○
		通年 (4～3 月)	0.011	0.162	0	0.063	0	○

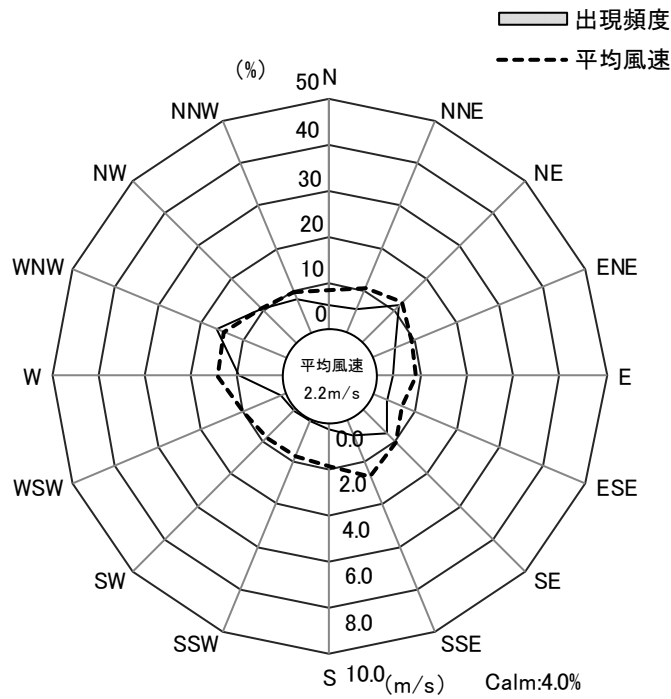


項目	調査地点	調査時期	期 間 平 均 値 (μg/m ³)	1 時間値	日 平 均 値		環境基準と の適合状況 適○ 否×
				最高値 (μg/m ³)	最高値 (μg/m ³)	35 μg/m ³ を超えた日数 (日)	
微小粒 子状物 質	TK-4	夏季 (6～8 月)	8	24	15	0	○
		秋季 (9～11 月)	5	25	14	0	○
		冬季 (12～2 月)	5	25	15	0	○
		春季 (3～5 月)	8	140	49	1	×
		通年 (4～3 月)	6	140	49	1	×

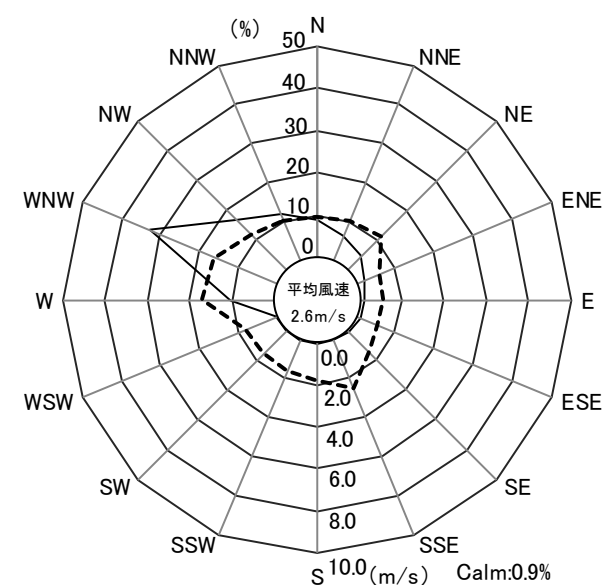
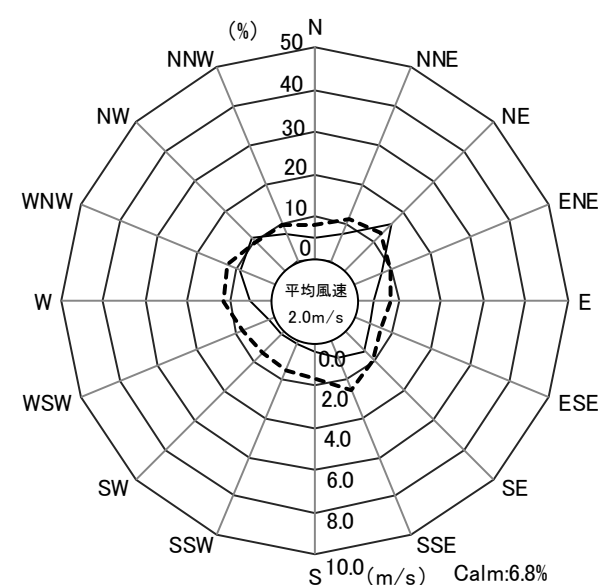
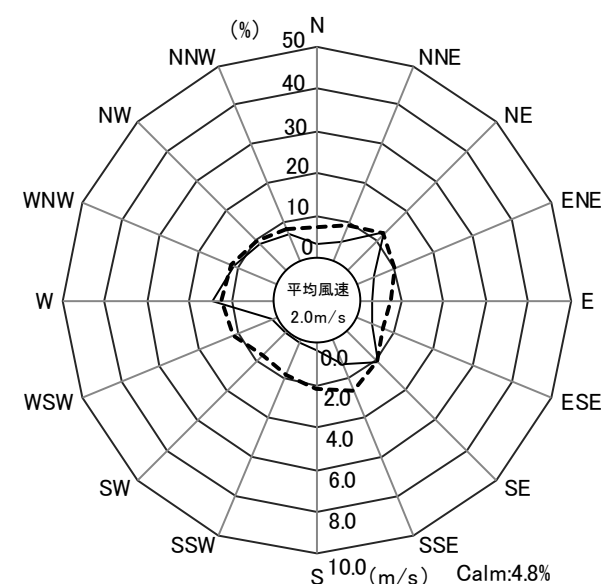
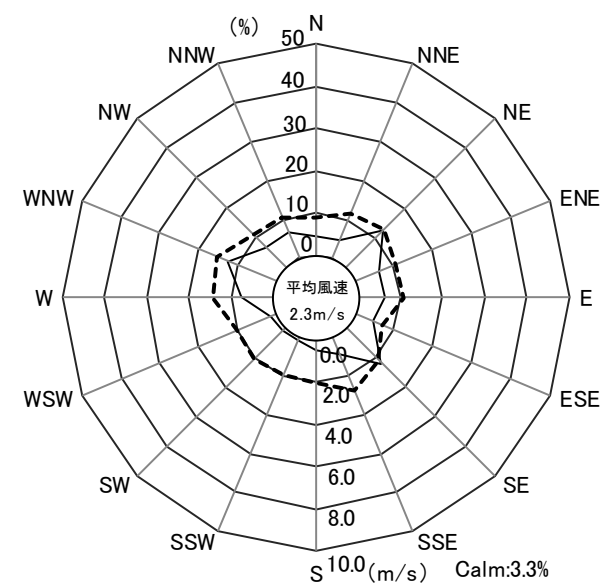


※令和 7 年 3 月 26 日に 1 時間値の最高値 140μg/m³、1 日平均値の最高値 49μg/m³ が確認されたが、これは静岡県内に飛来した黄砂の影響と考えられ、静岡県内の一般環境測定局においても高い値が確認されている。調査地点の期間平均値は 6μg/m³ と環境基準と比較して十分に低い値を示していることから、対象施設の稼働による影響ではないと考えられる。

項目	調査時期		風向・風速			
			平均風速 (m/s)	最多風向 (16 方位)	最大	
					風速 (m/s)	風向 (16 方位)
風向・風速	令和 6 年	4 月	2.2	SE	6.5	WNW
		5 月	2.1	SE	6.8	W
		6 月	2.1	NE	6.0	ENE
		7 月	2.0	W	4.7	W
		8 月	2.0	NE	4.8	NE
		9 月	1.8	NE	4.6	WSW
		10 月	1.9	NE	4.8	NE、SSE
		11 月	2.3	NE	10.6	W
		12 月	2.4	WNW	5.9	W
	令和 7 年	1 月	2.6	WNW	6.2	WNW
		2 月	2.8	WNW	7.6	W
		3 月	2.5	WNW	6.7	E
月別平均風速：1.8～2.8m/s 年間平均風速：2.2m/s 年間卓越風向：WNW						



通年の風配図及び風向別平均風速図



季節別の風配図及び風向別平均風速図

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
二酸化硫黄	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化硫黄の調査結果は以下のとおり、環境基準値及び予測結果以下であった。 【期間平均値】（通年） TK-4（小堀谷）：0.000ppm 【日平均値の最高値】 TK-4（小堀谷）：0.001ppm	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化硫黄の将来予測濃度は以下のとおり、環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TK-4（小堀谷）：0.0030ppm 【日平均値】 TK-4（小堀谷）：0.0060ppm
二酸化窒素	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化窒素の調査結果は以下のとおり、環境基準値及び予測結果以下であった。 【期間平均値】（通年） TK-4（小堀谷）：0.002ppm 【日平均値の最高値】 TK-4（小堀谷）：0.007ppm	施設稼働に伴い煙突から排出される二酸化窒素の将来予測濃度は以下のとおり、環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TK-4（小堀谷）：0.0042ppm 【日平均値】 TK-4（小堀谷）：0.0116ppm
浮遊粒子状物質	施設稼働に伴い煙突から排出される浮遊粒子状物質の調査結果は以下のとおり、環境基準値及び予測結果（年平均値）以下であった。 なお、日平均値の最高値が予測結果をわずかに上回ったが、これらは春季に発生した黄砂の影響によるものと考えられる。 【期間平均値】（通年） TK-4（小堀谷）：0.011mg/m³ 【日平均値の最高値】 TK-4（小堀谷）：0.063mg/m³	施設稼働に伴い煙突から排出される浮遊粒子状物質の将来予測濃度は以下のとおり、環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TK-4（小堀谷）：0.0152mg/m³ 【日平均値】 TK-4（小堀谷）：0.0432mg/m³
微小粒子状物質	施設稼働に伴い煙突から排出される微小粒子状物質の調査結果は以下のとおり、環境基準値及び現況濃度（評価書：年平均値）以下であった。 なお、日平均値の最高値が現況濃度（評価書）を若干上回ったが、これらは春季に発生した黄砂の一時的な影響によるものと考えられる。 【期間平均値】（通年） TK-4（小堀谷）：6μg/m³ 【日平均値の最高値】 TK-4（小堀谷）：49μg/m³	評価書では予測評価を行っていないため、現況濃度を以下に示す。 【期間平均値】（四季） TK-4（小堀谷）：10μg/m³ 【日平均値の最高値】 TK-4（小堀谷）：23μg/m³

3) 破碎処理施設の稼働に伴い発生する大気汚染物質

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	降下ばいじん
調査方法	ダストジャーを用いる方法
調査地点	対象事業実施区域周辺の3地点：大気質（TK-1～3）
調査時期	稼働後施設定常稼働時 夏季：令和6年7月27日～8月26日 秋季：令和6年10月10日～11月8日 冬季：令和7年1月22日～2月21日 春季：令和7年2月28日～3月31日

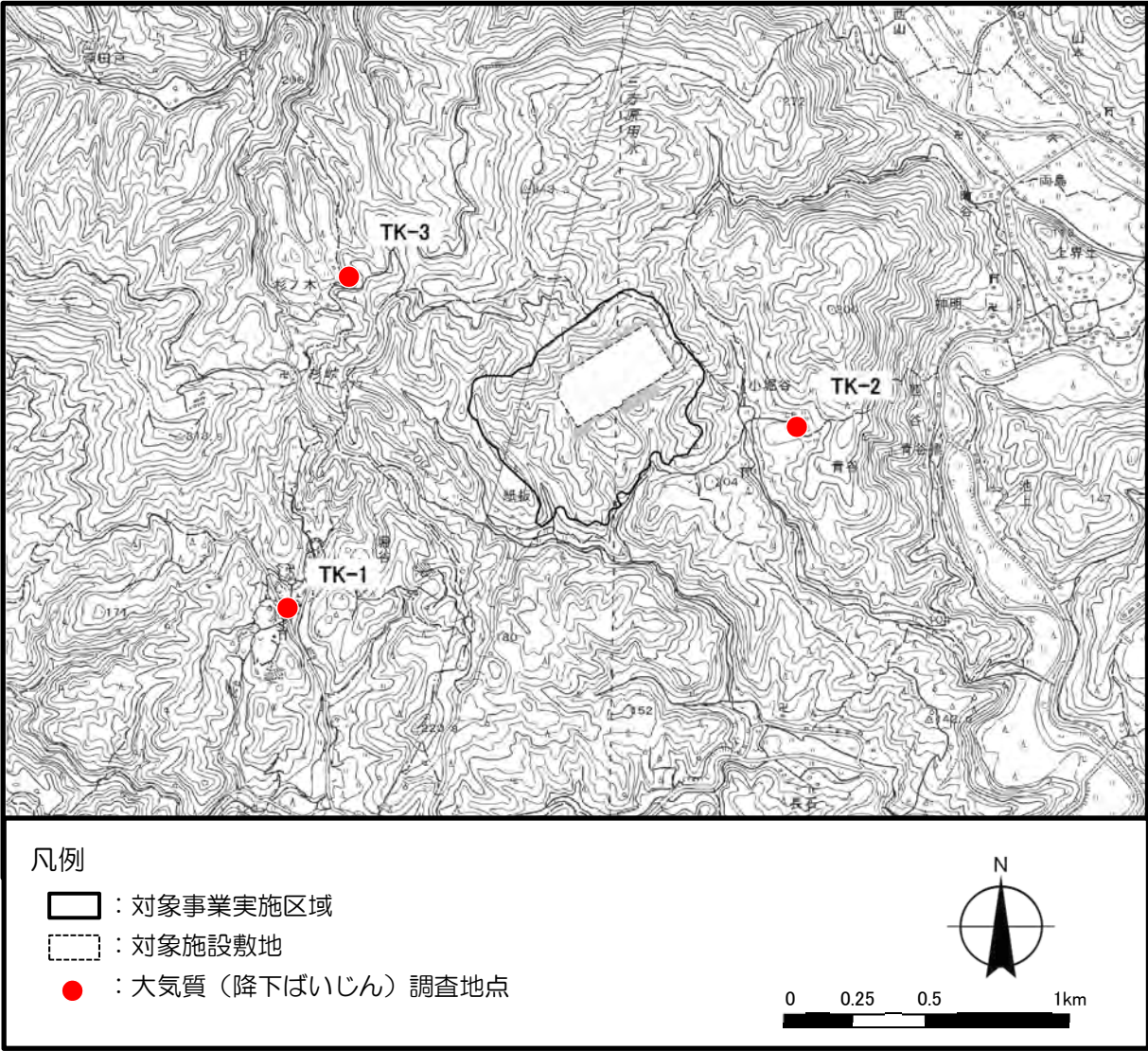


図 事後調査地点（大気質）

② 調査結果

項目	調査地点	調査時期	期間平均値（t/km ² /30日）		
			降下ばいじん量	溶解性物質	不溶解性物質
降下ばいじん	TK-1	夏季	0.74	0.06	0.68
		秋季	1.49	1.12	0.37
		冬季	1.56	0.41	1.15
		春季	3.32	1.80	1.52
		四季	1.78	0.85	0.93
	TK-2	夏季	0.41	0.04	0.37
		秋季	1.61	1.28	0.33
		冬季	1.56	0.85	0.71
		春季	3.33	1.21	2.12
		四季	1.73	0.85	0.88
	TK-3	夏季	0.93	0.07	0.86
		秋季	1.74	1.38	0.36
		冬季	2.00	1.02	0.98
		春季	2.95	1.13	1.82
		四季	1.91	0.90	1.01

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
降下ばいじん	施設稼働に伴い破碎処理施設から発生する粉じんの調査結果は以下のとおり、現況濃度（評価書）以下であった。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：1.78t/km²/30日 TK-2（小堀谷）：1.73t/km²/30日 TK-3（杉ノ本）：1.91t/km²/30日	破碎処理施設の稼働に伴い発生する粉じんについては、全ての機器を建屋内に収納し、集塵機により建物外への発生を抑制する対策により、影響はほとんど無いものと判断される。 評価書では予測濃度を算出していないため、現況濃度を以下に示す。 【期間平均値】（四季） TK-1（堀谷）：2.89t/km²/30日 TK-2（小堀谷）：2.95t/km²/30日 TK-3（杉ノ本）：3.47t/km²/30日

4) 施設関連車両の走行に伴い発生する大気汚染物質

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	二酸化窒素、浮遊粒子状物質、交通量
調査方法	二酸化窒素：「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）に定める方法 浮遊粒子状物質：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める方法 交通量：目視観測等による方法
調査地点	施設関連車両の走行ルート4地点：大気質（TD-1～4）
調査時期	稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 大気質：令和6年10月10日～10月16日 交通量：令和6年10月15日（火）6:00～10月16日（水）6:00

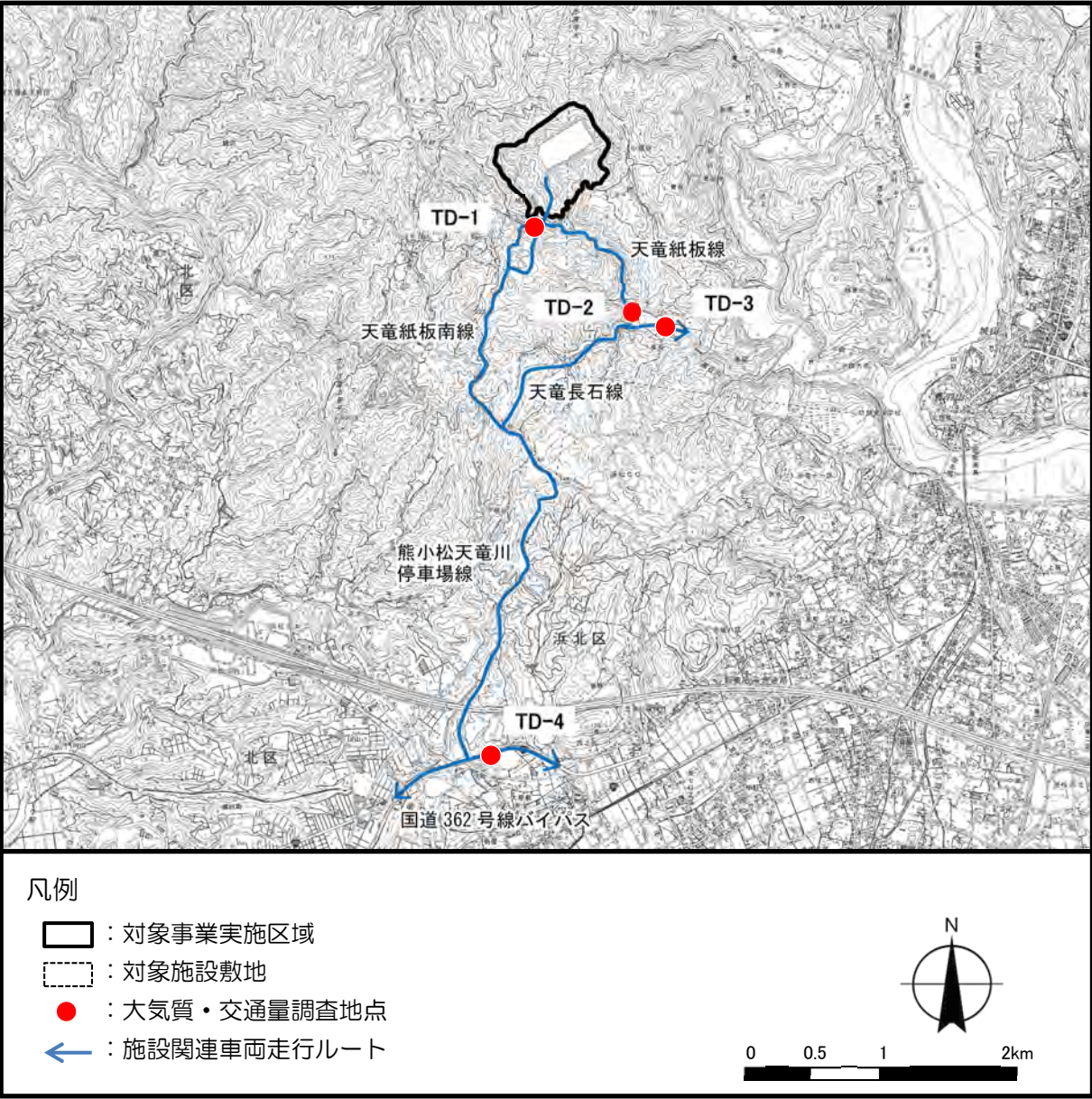


図 事後調査地点（大気質・交通量）

② 調査結果

項目	調査地点	期 間 平均値 (ppm)	1 時間値 の最高値 (ppm)	日平均値			環境基準と の適合状況 適○ 否×
				最高値 (ppm)	0.04ppm 以 上 0.06ppm 以下の日数 (日)	0.06ppm を超えた日 数 (日)	
二酸化窒 素	TD-1	0.002	0.006	0.002	0	0	○
	TD-2	0.005	0.018	0.006	0	0	○
	TD-3	0.005	0.035	0.009	0	0	○
	TD-4	0.009	0.039	0.011	0	0	○

項 目	調査地点	期 間 平均値 (mg/m ³)	1 時間値		日平均値		環境基準と の適合状況 適○ 否×
			最高値 (mg/m ³)	0.20mg/ m ³ を超え た時間数 (時間)	最高値 (mg/m ³)	0.10mg/ m ³ を超え た日数 (日)	
浮遊粒子 状物質	TD-1	0.009	0.017	0	0.012	0	○
	TD-2	0.009	0.018	0	0.012	0	○
	TD-3	0.010	0.031	0	0.012	0	○
	TD-4	0.011	0.027	0	0.013	0	○

交通量の調査結果は、「2.騒音・振動（p.19）」に示すとおりである。

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
二酸化窒素	施設関連車両の走行に伴い発生する二酸化窒素の調査結果は以下のとおり、環境基準値以下であった。 なお、調査結果が予測値よりもわずかに高い地点があったが、環境影響の程度は小さいものと考えられる。 【期間平均値】 TD-1：0.0020ppm TD-2：0.0050ppm TD-3：0.0050ppm TD-4：0.0090ppm 【日平均値の最高値】 TD-1：0.0020ppm TD-2：0.0060ppm TD-3：0.0090ppm TD-4：0.0110ppm	施設関連車両の走行に伴い発生する二酸化窒素の将来予測濃度は以下のとおり、環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TD-1：0.0033ppm TD-2：0.0030ppm TD-3：0.0025ppm TD-4：0.0095ppm 【日平均値】 TD-1：0.0076ppm TD-2：0.0071ppm TD-3：0.0063ppm TD-4：0.0174ppm
浮遊粒子状物質	施設関連車両の走行に伴い発生する浮遊粒子状物質の調査結果は以下のとおり、環境基準値及び予測結果以下であった。 【期間平均値】 TD-1：0.0090mg/m ³ TD-2：0.0090mg/m ³ TD-3：0.0100mg/m ³ TD-4：0.0110mg/m ³ 【日平均値の最高値】 TD-1：0.0120mg/m ³ TD-2：0.0120mg/m ³ TD-3：0.0120mg/m ³ TD-4：0.0130mg/m ³	施設関連車両の走行に伴い発生する浮遊粒子状物質の将来予測濃度は以下のとおり、環境基準値以下と予測される。 【年平均値】 TD-1：0.0150mg/m ³ TD-2：0.0130mg/m ³ TD-3：0.0141mg/m ³ TD-4：0.0131mg/m ³ 【日平均値】 TD-1：0.0388mg/m ³ TD-2：0.0343mg/m ³ TD-3：0.0368mg/m ³ TD-4：0.0345mg/m ³

(2) 騒音・振動

1) 施設関連車両の走行に伴う騒音

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	道路交通騒音：騒音レベル 交通量
調査方法	道路交通騒音：「騒音に係る環境基準について」（平成10年環境庁告示第64号）に定める方法 交通量：目視観測等による方法
調査地点	施設関連車両の走行ルート5地点：騒音・交通量（D-1～5）
調査時期	稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 騒音・交通量：令和6年10月15日（火）6:00～10月16日（水）6:00

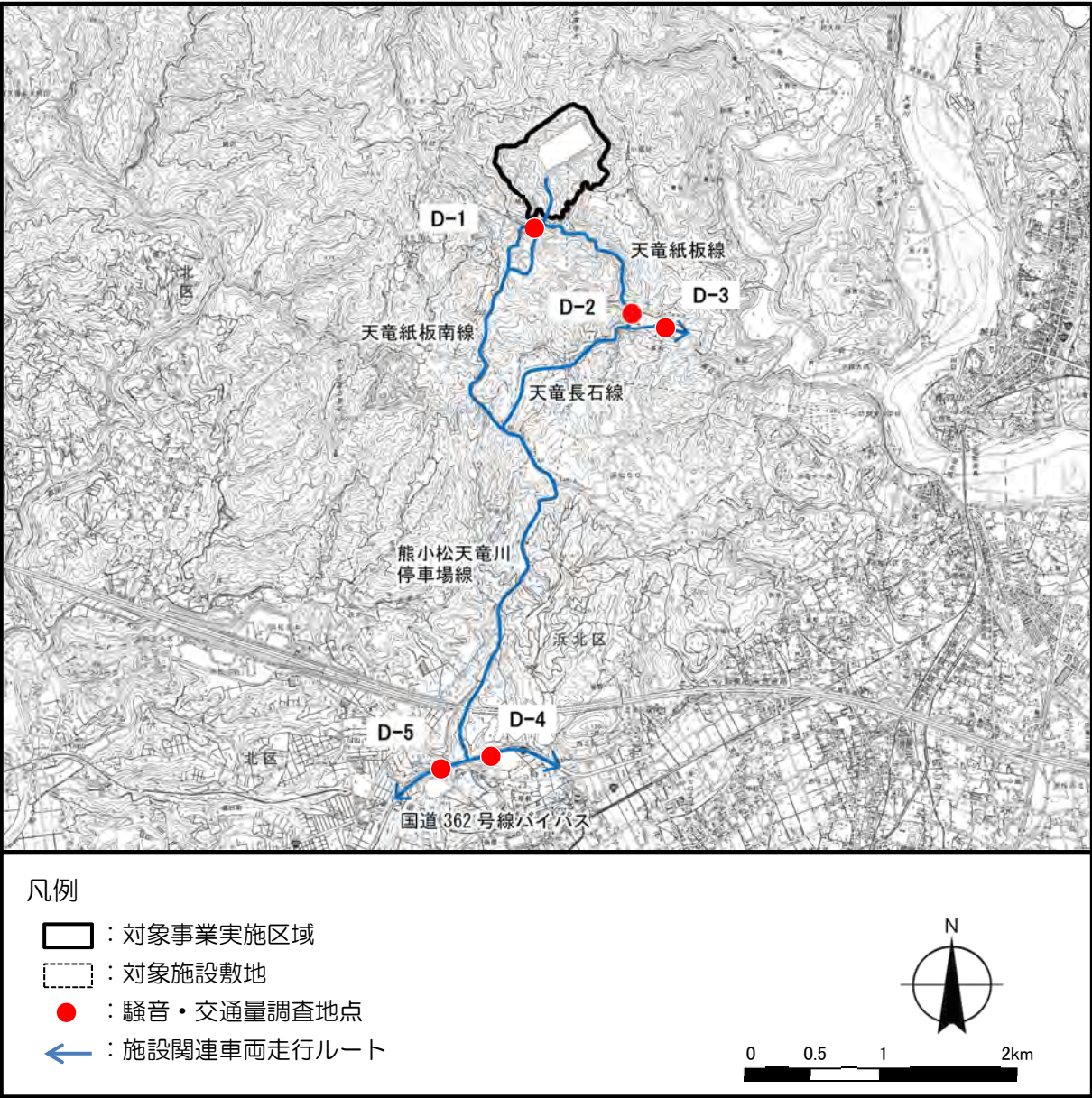


図 事後調査地点（騒音・交通量）

② 調査結果

単位：dB

項目	調査地点	時間帯	道路交通騒音 (L_{Aeq})	環境基準 (L_{Aeq})	環境基準との 適合状況 適:○ 否:×
騒音レベル	D-1	昼間	49	(65)	○
		夜間	50	(60)	○
	D-2	昼間	49	(65)	○
		夜間	46	(60)	○
	D-3	昼間	61	(65)	○
		夜間	53	(60)	○
	D-4	昼間	64	70	○
		夜間	55	65	○
	D-5	昼間	65	70	○
		夜間	56	65	○

注 1) D-1～D-3 地点は、環境基準の類型指定外の地域である。参考値として最も近い区域にある B 類型の道路に面する地域の基準値を（ ）示した。

注 2) D-4、D-5 地点の環境基準値は、幹線道路を担う道路に近接する空間（特例）の値である。

注 3) 時間の区分は、昼間：6:00～22:00、夜間：22:00～6:00 を示す。

項目	地点	断面交通量（台）					
		施設関連車両 （大型車）	大型車	小型車	二輪車	自動車 類計	大 型 混入率
交通量	D-1	1	0	57	3	58	2%
	D-2	0	3	22	2	25	12%
	D-3	130	162	726	45	1,018	29%
	D-4	171	1,266	7,707	167	9,144	16%
	D-5	201	1,703	10,145	220	12,049	16%

注）交通量の調査結果は、6:00～翌 6:00 の 24 時間交通量を示す。

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
騒音レベル	施設関連車両の走行に伴う道路交通騒音（ L_{Aeq} ）の調査結果（昼間）は以下のとおり、環境基準値及び予測結果（D-4 及び D-5 を除く）以下であった。	施設関連車両の走行に伴う道路交通騒音（ L_{Aeq} ）の予測結果（昼間）は以下のとおり、環境基準値以下と予測される。
	なお、調査結果が予測値よりもわずかに高い地点があったが、調査地点は国道 362 号バイパス沿道に位置し、評価書以降に道路が整備され、交通状況が変化したことによる影響と考えられる。	
	D-1：49dB	D-1：57.7dB
	D-2：49dB	D-2：56.9dB
	D-3：61dB	D-3：61.5dB
	D-4：64dB	D-4：62.6dB
	D-5：65dB	D-5：63.9dB

2) 施設関連車両の走行に伴う振動

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	道路交通振動：振動レベル 交通量
調査方法	道路交通振動：「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）に定める方法 交通量：目視観測等による方法
調査地点	施設関連車両の走行ルート5地点：振動・交通量（D-1～5）
調査時期	稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 振動・交通量：令和6年10月15日（火）6:00 ～10月16日（水）6:00

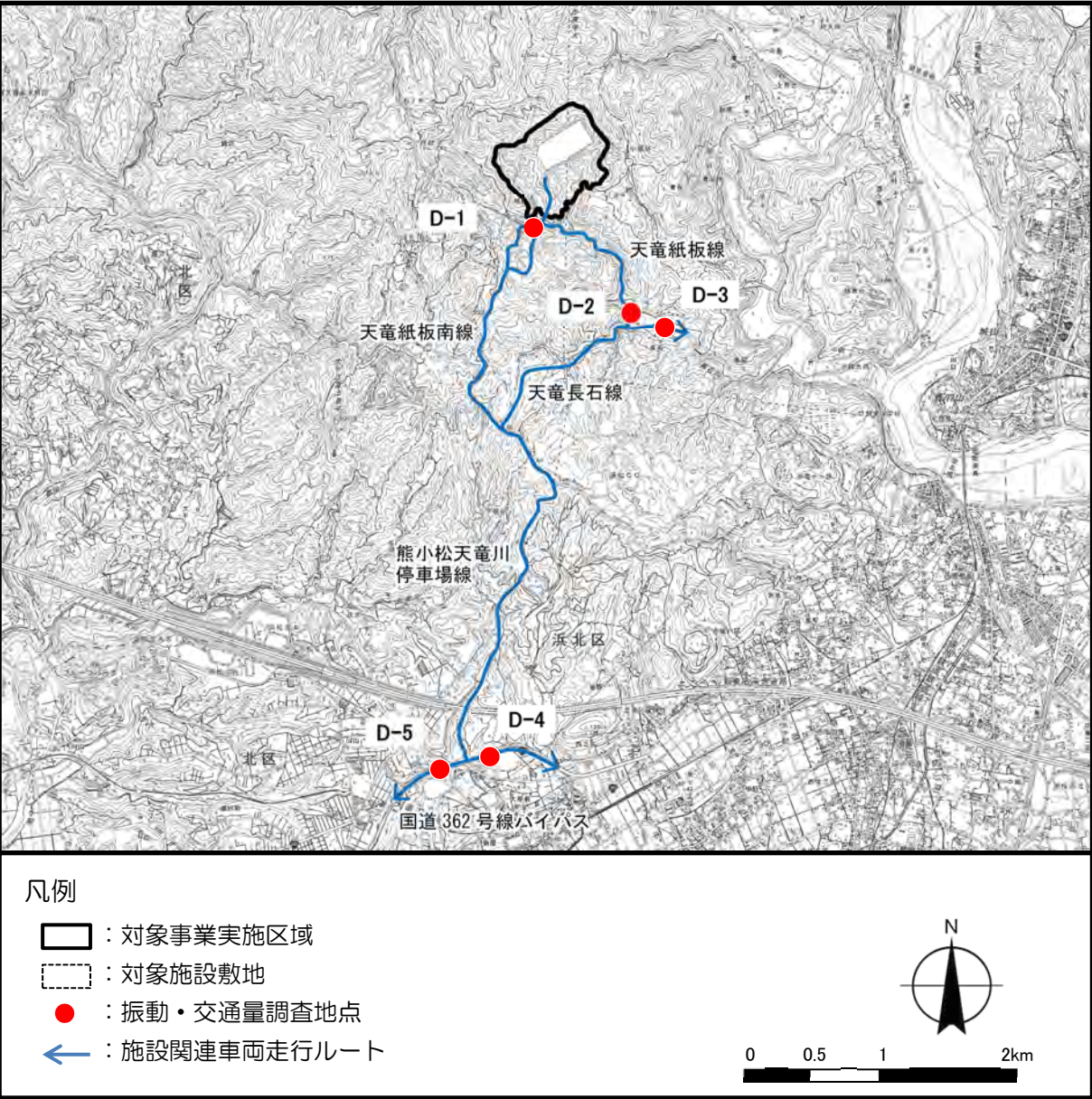


図 事後調査地点（振動・交通量）

② 調査結果

単位：dB					
項目	調査地点	時間帯	道路交通振動 (L ₁₀)	要請限度 (L ₁₀)	要請限度と の適合状況 適:○ 否:×
振動レベル	D-1	昼間	<25	65	○
		夜間	<25	60	○
	D-2	昼間	<25	65	○
		夜間	<25	60	○
	D-3	昼間	<25	65	○
		夜間	<25	60	○
	D-4	昼間	31	65	○
		夜間	<25	60	○
	D-5	昼間	32	65	○
		夜間	<25	60	○

注 1) 表中の「<25」は、振動レベル計の測定下限値（25dB）未満を示す。
注 2) 時間の区分は、昼間：8:00～20:00、夜間：20:00～8:00
注 3) 要請限度は、第 1 種区域の値である。

交通量の調査結果は、「2.騒音・振動（p.19）」に示すとおりである。

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
振動レベル	施設関連車両の走行に伴う道路交通振動（L ₁₀ ）の調査結果は以下のとおり、要請限度値及び予測結果（D-4 昼間を除く）以下であった。 なお、調査結果が予測値よりも高い地点があったが、調査地点は国道 362 号バイパス沿道に位置し、評価書以降に道路が整備され、交通状況が変化したことによる影響と考えられる。 D-1：25dB 未満(昼間・夜間) D-2：25dB 未満(昼間・夜間) D-3：25dB 未満(昼間・夜間) D-4：31dB(昼間)、25dB 未満(夜間) D-5：32dB(昼間)、25dB 未満(夜間)	施設関連車両の走行に伴う道路交通振動（L ₁₀ ）は、以下に示すとおりであり、要請限度の基準値以下と予測される。 D-1：19.7dB(昼間)、9.8dB(夜間) D-2：14.1dB(昼間)、12.1dB(夜間) D-3：33.8dB(昼間)、26.0dB(夜間) D-4：25.8dB(昼間)、25.1dB(夜間) D-5：36.8dB(昼間)、18.5dB(夜間)

(3) 水質

1) 排水に伴う水の汚れ

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	水素イオン濃度（pH）、溶存酸素量（DO）、生物化学的酸素要求量（BOD）、水温
調査方法	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示第59号）に定める方法
調査地点	事業計画地内調整池堰堤の下流側2地点（S-1、S-2）、区域内直下の沢1地点（S-3）、長石川上流2地点（S-4、S-5）
調査時期	稼働後施設定常稼働時 夏季：令和6年8月9日、冬季：令和7年2月18日

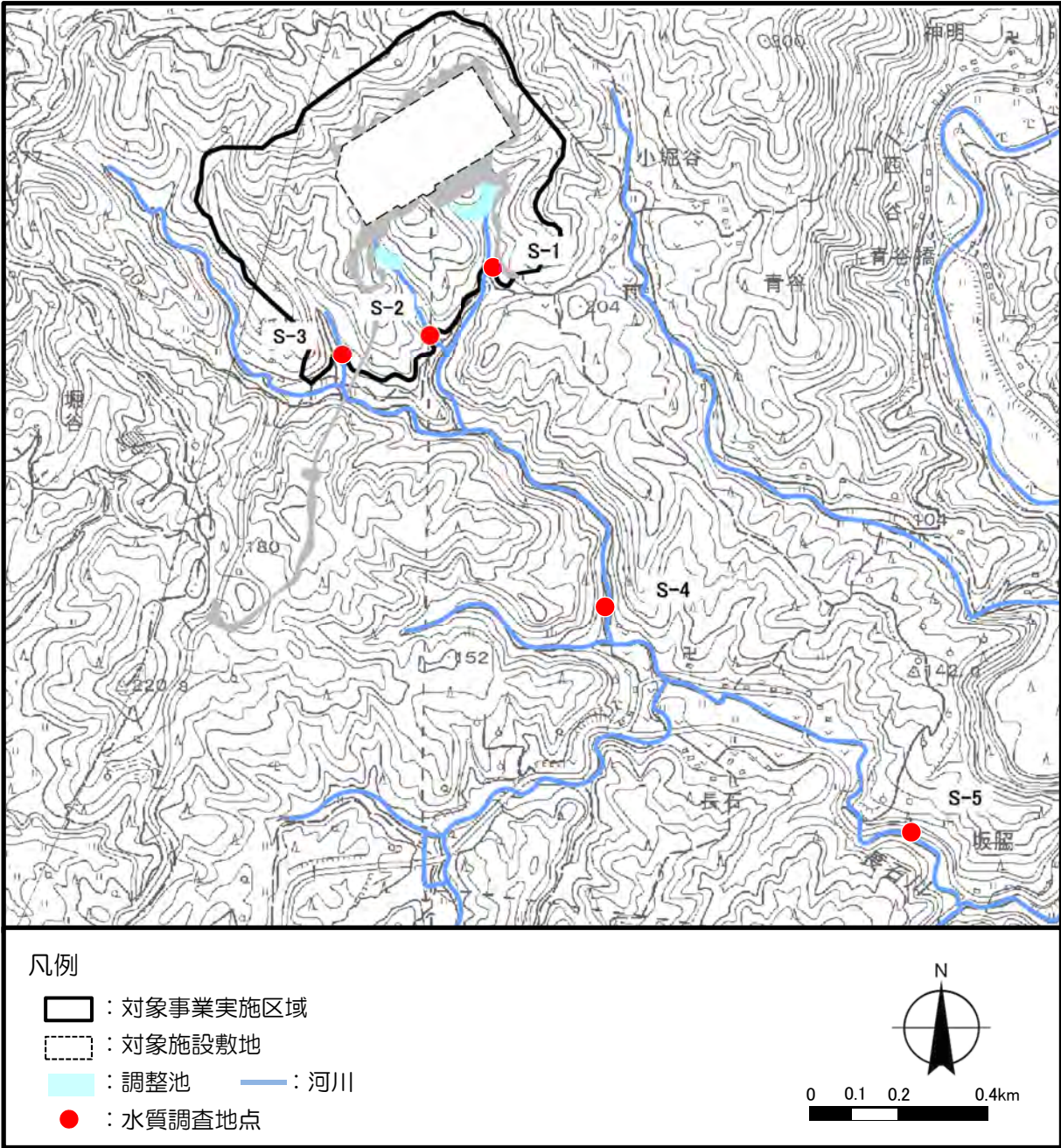


図 事後調査地点（水質）

② 調査結果

項目	調査時期	調査地点	調査結果			
			水素イオン濃度（pH） －	溶存酸素量（DO） mg/L	生物化学的酸素要求量（BOD） mg/L	水温 ℃
水質	夏季	S-1	8.2	7.7	0.5 未満	28.5
		S-2	8.1	8.1	0.5 未満	25.8
		S-3	8.1	8.6	0.5 未満	24.7
		S-4	8.2	8.2	0.5 未満	24.5
		S-5	8.1	8.1	0.5 未満	26.7
	冬季	S-1	8.0	12.1	0.5 未満	6.5
		S-2	7.8	10.6	0.5 未満	10.9
		S-3	7.9	12.2	0.5 未満	8.0
		S-4	8.0	12.3	0.5 未満	6.1
		S-5	7.9	12.1	0.6	6.2
	環境基準(AA 類型)		6.5 以上 8.5 以下	7.5mg/L 以上	1mg/L 以下	—

③ 予測結果との比較

予測項目		事後調査結果	予測結果
排水に伴う水の汚れ	水素イオン濃度（pH）、溶存酸素量（DO）、生物化学的酸素要求量（BOD）、水温	施設稼働に伴う排水はクロードシステムの導入により、対象事業実施区域外へ放流していない。 施設稼働の排水に伴う水の汚れの調査結果は全地点で環境基準値を満足する結果であった。 予測結果のとおり周辺環境への影響は生じていないものと考えられる。	排水は対象事業実施区域外へ放流しない。 雨水は一度調整池に放流した後、長石川へ排水するため周辺環境への影響は生じないと予測される。

2) 排出水に伴う水の濁り

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	浮遊物質（SS）
調査方法	「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示第59号）に定める方法
調査地点	事業計画地内調整池堰堤の下流側2地点（S-1、S-2）、 区域内直下の沢1地点（S-3）、長石川上流2地点（S-4、S-5）
調査時期	稼働後施設定常稼働時(降雨中) 1回目：令和6年10月3日～10月4日 2回目：令和6年11月2日～11月3日

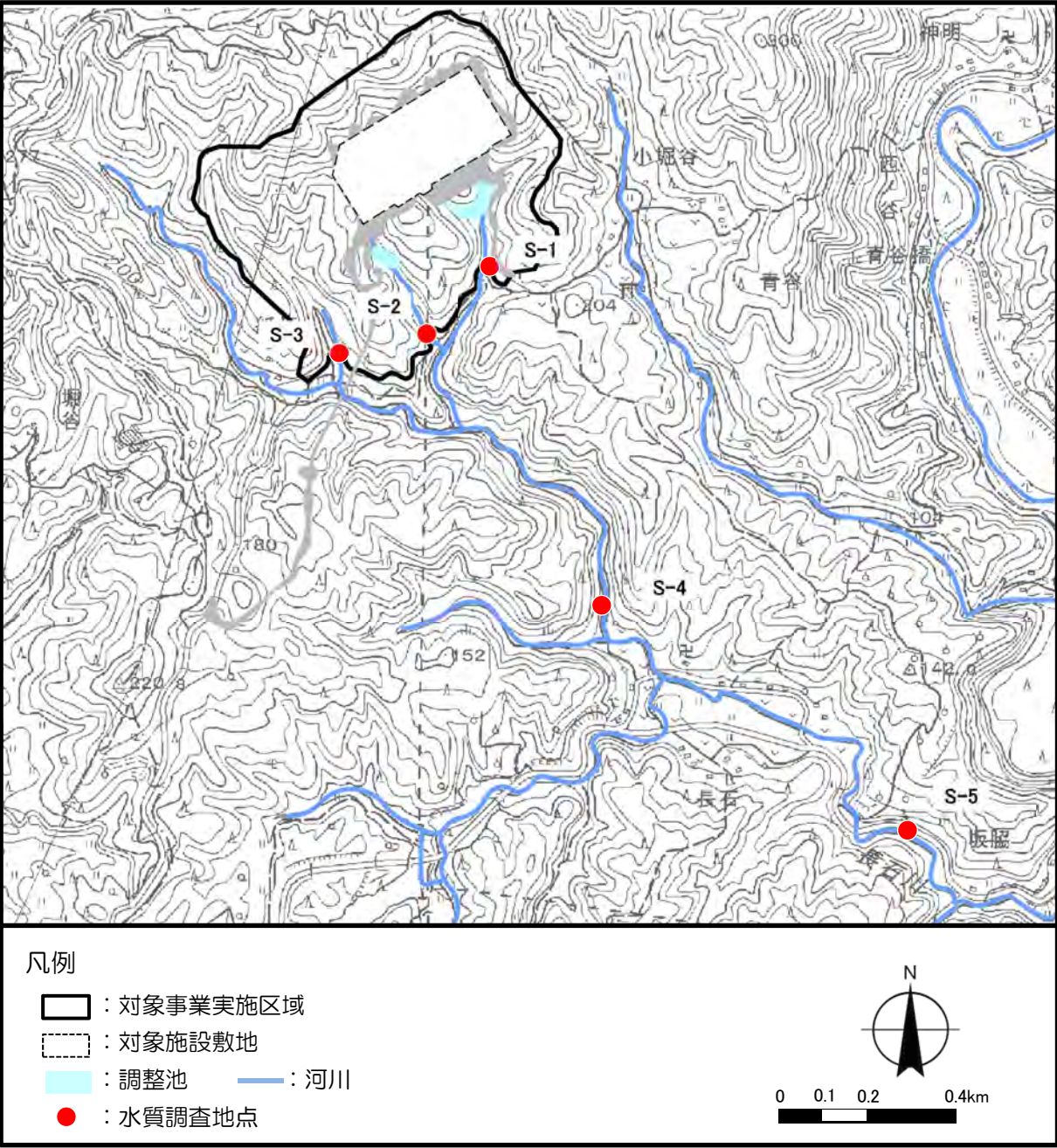


図 事後調査地点（水質）

② 調査結果

項目	調査日	時刻	降水量 (mm)	浮遊物質（SS） (mg/L)					参考基準
				S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	
水質 1 回目	令和 6 年 10 月 3 日	17 時	6.0	—	—	—	—	—	環境基準 AA 類型 25mg/L
		18 時	12.5	23	30	100	28	44	
		19 時	3.0	—	—	—	—	—	
		20 時	0.0	—	—	—	—	—	
		21 時	9.5	29	17	15	97	110	
		22 時	0.5	—	—	—	—	—	
		23 時	1.0	—	—	—	—	—	
		24 時	0.0	10	9	5	9	16	
	令和 6 年 10 月 4 日	1 時	0.5	—	—	—	—	—	
		2 時	0.5	—	—	—	—	—	
		3 時	1.0	29	6	6	7	8	
		4 時	5.0	—	—	—	—	—	
		5 時	1.0	—	—	—	—	—	
		6 時	0.5	—	—	—	—	—	
		7 時	0.0	—	—	—	—	—	
		8 時	0.0	—	—	—	—	—	
		9 時	0.0	7	3	3	7	6	

項目	調査日	時刻	降水量 (mm)	浮遊物質（SS） (mg/L)					参考基準
				S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	
水質 2 回目	令和 6 年 11 月 2 日	15 時	3.5	37	13	11	9	5	環境基準 AA 類型 25mg/L
		16 時	5.5	—	—	—	—	—	
		17 時	26.5	42	68	96	130	120	
		18 時	3.5	—	—	—	—	—	
		19 時	0.0	—	—	—	—	—	
		20 時	0.0	—	—	—	—	—	
		21 時	0.0	12	22	6	11	20	
		22 時	0.0	—	—	—	—	—	
		23 時	0.5	—	—	—	—	—	
		24 時	0.0	—	—	—	—	—	
	令和 6 年 11 月 3 日	1 時	0.0	—	—	—	—	—	
		2 時	0.0	6	5	2	7	8	
		3 時	0.0	—	—	—	—	—	
		4 時	0.0	—	—	—	—	—	
		5 時	0.0	4	3	2	3	8	

注 1) 降水量は「気象統計情報」（気象庁 HP）天竜地域気象観測所の観測結果を示す。
注 2) 参考基準は対象事業実施区域周辺河川の天竜川上流及び下流の環境基準（AA 類型）を示す。
なお、水質の環境基準は、水質が安定した平常時を対象としているため、降雨時の調査においては参考とした。
注 3) 表中の網掛けは最大を示す。

1 回目及び 2 回目調査ともに調整池のない S-3～S-5 における最大の SS は 96～130mg/L と増加したが、調整池を設置した S-1 及び S-2 は 29～68mg/L であったことから、調整池の効果により、降雨時による一時的な濁水の発生が抑制されていることが確認された。

建設前と比較して降雨時の濁水（SS）が大幅に抑えられていることが確認された。

項目		S-1		S-2		参考基準
		建設前 調整池なし	建設後 調整池あり	建設前 調整池なし	建設後 調整池あり	
水質	降水量のピーク時 最大浮遊物質質量（SS） （mg/L）	200～280	29～42	150～160	30～68	環境基準 AA 類型 25mg/L
	【1 時間降水量のピーク時】 環境影響評価時 建設前：1 回目 平成 28 年 6 月 21 日 9 時 降水量 16.5mm 2 回目 平成 28 年 9 月 20 日 17 時 降水量 20.5mm 事後調査時 建設後：1 回目 令和 6 年 10 月 3 日 18 時 降水量 12.5mm 2 回目 令和 6 年 11 月 2 日 17 時 降水量 26.5mm					

なお、水質の環境基準は、水質が安定した平常時を対象としているため、降雨時の調査においては参考とした。

予測項目		事後調査結果	予測結果
排水に伴う水の濁り	浮遊物質量 (SS)	施設稼働に伴う排水はクロースドシステムの導入により、対象事業実施区域外へ放流していない。 降雨時における浮遊物質量の最大値は、調整池のある地点で 29～68mg/L、調整池のない地点で 96～130mg/L であった。その後、調整池のある地点では緩やかな減少が確認され、12 時間後には全地点ともに浮遊物質量が 2～8mg/L と平常時程度に減少することが確認された。 また、調整池のある S-1 及び S-2 においては、建設前と比較して降雨時の濁水 (SS) が大幅に抑えられていることが確認された。 予測結果のとおり、雨水による濁りは調整池で緩和されることが確認され、12 時間程度で平常時に収束することから、周辺環境への影響は生じていないもの考えられる。	排水は対象事業実施区域外へ放流しない。 雨水は一度調整池に放流した後、長石川へ排水するため周辺環境への影響は生じないと予測される。

(4) 景観

1) 眺望景観の変化

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	主要な眺望点からの景観
調査方法	写真撮影による方法
調査地点	主要眺望点5地点（No.1～5）
調査時期	施設竣工後 夏季：令和6年8月8日、8月9日 冬季：令和7年2月19日

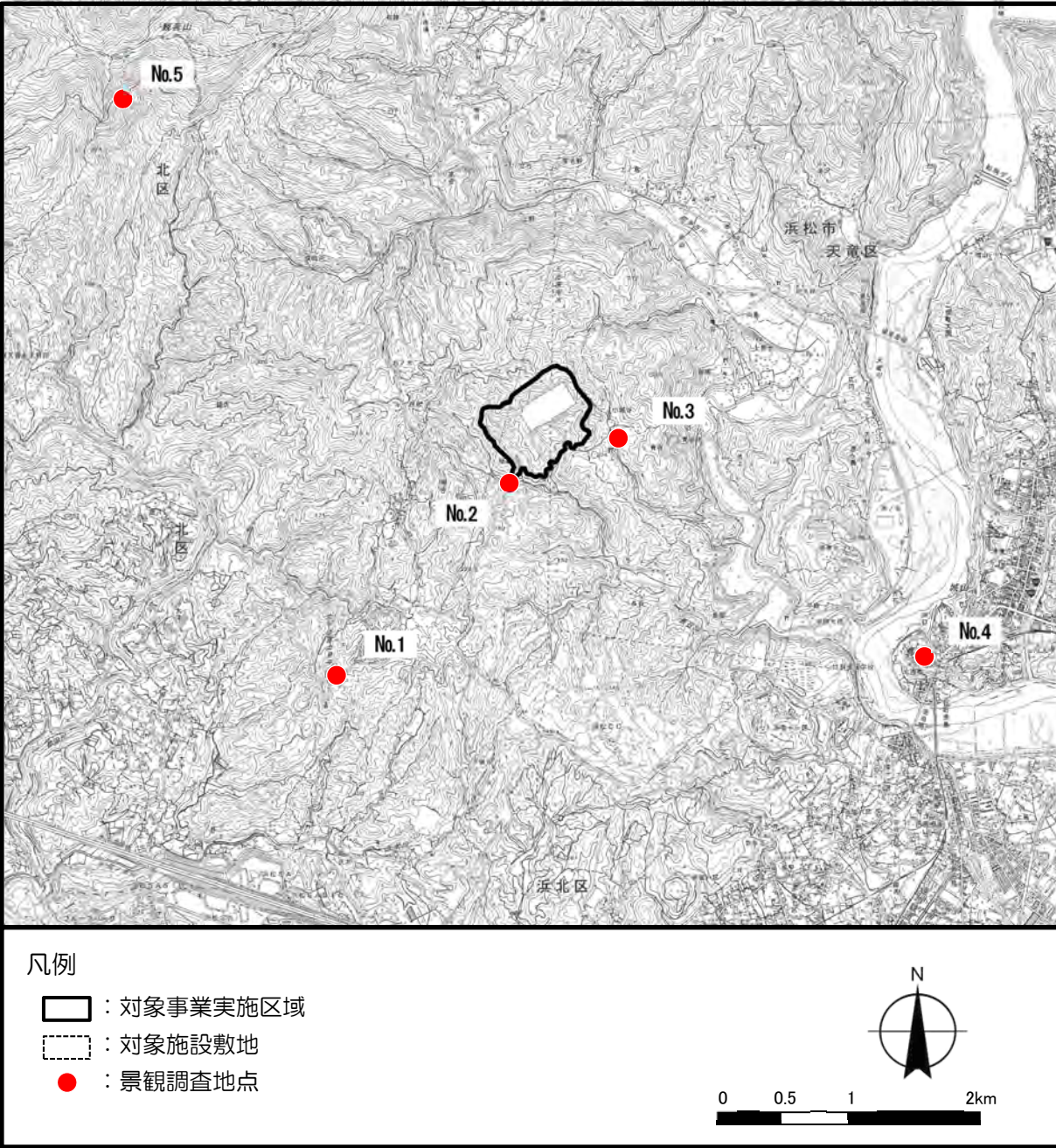


図 事後調査地点（景観）

② 調査結果

No.1 太平洋富士見平（事業地からの距離：約 2,300m）

- 対象事業実施区域の南西側の太平洋富士見平に位置する眺望点である。
- この地点は、対象事業実施区域を南西側から中景として望むことができる。
- 対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。

撮影日：令和6年8月8日（夏季）撮影日：令和7年2月19日（冬季）

No.2 周辺集落（紙板地区）（事業地からの距離：約 460m）

- 対象事業実施区域の南西に位置する周辺集落（紙板地区）を代表する眺望地点である。
- この地点は、対象事業実施区域を南西側から近景として望むことができる。
- 対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。

撮影日：令和6年8月8日（夏季）撮影日：令和7年2月19日（冬季）

No.3 周辺集落（小堀谷地区）（事業地からの距離：約 500m）

- 対象事業実施区域の南東に位置する周辺集落（小堀谷地区）を代表する眺望地点である。
- この地点は、青谷鍾乳洞の駐車スペースに位置し、対象事業実施区域を南東側から近景として望むことができる。
- 対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。



撮影日：令和 6 年 8 月 8 日（夏季）



撮影日：令和 7 年 2 月 19 日（冬季）

No.4 鳥羽山公園（事業地からの距離：約 3,200m）

- 対象事業実施区域の南東側の鳥羽山公園に位置する眺望点である。
- この地点は、対象事業実施区域を南東側から中景として望むことができる。
- 対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。



撮影日：令和 6 年 8 月 8 日（夏季）



撮影日：令和 7 年 2 月 19 日（冬季）

No.5 観音山登山道（事業地からの距離：約 3,800m）

- 対象事業実施区域の北西側の観音山登山道に位置する眺望点である。
- この地点は、対象事業実施区域を北西側から中景として望むことができる。
- 対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。



撮影日：令和 6 年 8 月 9 日（夏季）



撮影日：令和 7 年 2 月 19 日（冬季）

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
眺望景観 の変化	施設の存在に伴う眺望景観の変化の事後調査結果は以下のとおりである。	施設の存在に伴う眺望景観の変化の予測結果は以下のとおりである。
	【No.1 太平洋富士見平】 対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。	【No.1 太平洋富士見平】 供用時には、計画施設の煙突の一部が視認できる。しかし、視認できる計画施設は小さいことから、施設の存在による圧迫感やスカイラインの切断は生じないため、眺望の変化は小さい。
	【No.2 周辺集落(紙板地区)】 対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。	【No.2 周辺集落(紙板地区)】 計画施設は、手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できないことから、眺望は変化しない。
	【No.3 周辺集落(小堀谷地区)】 対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。	【No.3 周辺集落(小堀谷地区)】 計画施設は、手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できないことから、眺望は変化しない。
	【No.4 鳥羽山公園】 対象施設をわずかに視認することができたが、眺望の変化は小さい。	【No.4 鳥羽山公園】 計画施設の煙突と建屋の上部が一部視認できる。しかし、視認できる計画施設は小さいことから、施設の存在による圧迫感やスカイラインの切断は生じないため、眺望の変化は小さい。
	【No.5 観音山登山道】 対象施設は手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できなかったため、眺望の変化はない。	【No.5 観音山登山道】 計画施設は、手前の尾根（樹林地）に遮られて視認できないことから、眺望は変化しない。

(5) 人と自然との触れ合いの活動の場

1) 施設関連車両の走行に伴う人と自然との触れ合いの活動の場への影響

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況
調査方法	来場者へのヒアリング等による方法
調査地点	森林公園内の1ヶ所（No.1）
調査時期	稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 令和6年10月15日（火）7:00～18:00



図 事後調査地点（人と自然との触れ合いの活動の場）

② 調査結果

アンケート調査の結果、利用者の全体が熊小松線を使用して森林公園にアクセスしていることやアクセス経路に渋滞がないことが確認された。

項目	内 容
利用者の属性(組) (7～18 時)	1人：51、2人組：22、3人組：1、4人組：0、5人組：0、6人組：0 それ以外：1 合計75
利用者の属性(人) (7～18 時)	男：84人 女：39人 合計123人
利用目的(割合%)	散策：38.7、ランニング1.3、サイクリング1.3、休憩41.3、その他：17.3 合計：100.0 ^{注)}

注) 割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100.0にならない。

[各ルートの車両アクセス数]		[渋滞の有無]		[断面交通量]	
ルート名	回答 組数	渋滞の有無	回答 組数	時間	断面交通量（台）
天竜紙板南線	0	有	0	7～18 時	施設関連 車両(大型)
天竜長石線	4	無	51		351
熊小松天竜川停車場線	51	不明	24		大型車
国道 362 号バイパス	30	合計	75		218
不明	24				小型
					1,034
					二輪
					17
					合計
					1,620

[断面交通量の混雑度]		注 1) アンケート調査を実施できなかった、回答が得られなかったものを不明とした。 注 2) 調査地点No.1 熊小松天竜川停車場線に至るまでに利用した複数経路を含む。
時間	施設関連車両 による混雑度	
7～18 時	0.031～0.077	

③ 予測結果との比較

予測項目	事後調査結果	予測結果
人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況	県道熊小松天竜川停車場線ルートは、全時間帯で混雑度が1.0未満となっており、施設関連車両の走行による地域交通への影響及び到達時間の変化は、ほとんど生じていないと考えられる。 アンケート調査の結果からも、全時間帯において渋滞は確認されなかった。	来場ルートである県道熊小松天竜川停車場線において、施設関連車両の影響する割合（混雑度：最大0.58）が飽和（＝1.0）に達しないため、到達時間の変化はないものと考えられる。

(6) 地球環境

1) 廃棄物処理への影響

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	廃棄物処理量の発生量及び種類
調査方法	運転記録、稼働記録の把握、集計による方法
調査時期	稼働後1年間の定常稼働時 令和6年4月1日～令和7年3月31日

② 調査結果

項目			発生量	排出量	再資源化量	焼却処分量	最終処分量
事後調査 結果	一般廃棄物	飛灰処理物（t/年）	3,338	3,338	0	0	3,338
		処理不適物（t/年）	32	32	0	0	32
		不燃残渣（t/年）	3,809	3,809	0	3,809	0
	産業廃棄物	汚泥（t/年）	0	0	0	0	0

③ 予測結果との比較

項目			発生量	排出量	再資源化量	焼却処分量	最終処分量
予測結果	一般廃棄物	飛灰処理物（t/年）	9,500	9,500	0	0	9,500
		処理不適物（t/年）	4,265	4,265	4,265	0	(4,265)
		不燃残渣（t/年）	3,832	3,832	3,832	0	(3,832)
	産業廃棄物	汚泥（t/年）	230	230	0	230	0

注）最終処分量のうち（ ）で示した量は、再資源化が困難であった場合での最大量を示す。

予測項目	事後調査結果	予測結果
廃棄物処理量の発生量及び種類	施設供用時における廃棄物量等の調査結果は以下のとおり、予測結果よりも少ない結果であり、評価書における環境保全目標の「一般廃棄物・産業廃棄物の排出量を出来る限り抑制すること」を満足するものと考えられる。 なお、予測結果と事後調査結果との差が大きい理由については、プラント設備技術の向上に加え、ごみ量減少によるものである。 【一般廃棄物の排出量】 飛灰処理物（t/年）：3,338 処理不適物（t/年）： 32 不燃残渣（t/年）：3,809 【産業廃棄物の排出量】 汚泥（t/年）： 0	施設供用時における廃棄物量等の予測結果は以下のとおりと予測される。 【一般廃棄物の排出量】 飛灰処理物（t/年）9,500 処理不適物（t/年）4,265 不燃残渣（t/年） 3,832 【産業廃棄物の排出量】 汚泥（t/年） 230

2) 温室効果ガスの発生量

① 調査概要

項目	内 容
調査項目	電気及び燃料の使用量
調査方法	運転記録、稼働記録の把握、集計による方法
調査時期	稼働後1年間の定常稼働時 令和6年4月1日～令和7年3月31日

② 調査結果

項目	区分	CO ₂	CH ₄	N ₂ O
	発生要因			
事後調査 結果	連続燃焼式 焼却施設	—	0.6488 tCH ₄ /年 (14 tCO ₂ /年)	1.1283 tN ₂ O/年 (350 tCO ₂ /年)
	燃料の使用	13,079 tCO ₂ /年	—	—
	廃棄物の焼却	34,667 tCO ₂ /年	—	—
	電気の消費量	10,003 tCO ₂ /年	—	—
	電気の発電量	-25,438 tCO ₂ /年	—	—
	合計排出量 (CO ₂ 換算排出量)	32,676 tCO ₂ /年		

注）CH₄のCO₂への換算は係数 21 を乗じ、N₂OのCO₂への換算は係数 310 を乗じて求めた。

③ 予測結果との比較

項目	区分	CO ₂	CH ₄	N ₂ O
	発生要因			
予測結果	連続燃焼式 焼却施設	—	0.1016 tCH ₄ /年 (2 tCO ₂ /年)	6.0638 tN ₂ O/年 (1880 tCO ₂ /年)
	燃料の使用	30,161 tCO ₂ /年	—	—
	廃棄物の焼却	70,665 tCO ₂ /年	—	—
	電気の消費量	13,472 tCO ₂ /年	—	—
	電気の発電量	-25,003 tCO ₂ /年	—	—
	合計排出量 (CO ₂ 換算排出量)	91,117 tCO ₂ /年		

注）CH₄のCO₂への換算は係数 21 を乗じ、N₂OのCO₂への換算は係数 310 を乗じて求めた。

予測項目	事後調査結果	予測結果
電気及び燃料の使用量	施設供用時における排出ガスの排出及び機械等の稼働に伴う温室効果ガス排出量の調査結果は以下のとおり、予測結果よりも少ない結果であり、評価書における環境保全目標の「温室効果ガスの排出量が可能な限り抑制されていること」を満足するものと考えられる。 なお、予測結果と事後調査結果との差が大きい理由については、プラント設備技術の向上に加え、ごみ量減少によるものである。 【温室効果ガス（CO₂）の排出量】 総排出量：32,676 tCO₂/年	施設供用時における排出ガスの排出及び機械等の稼働に伴う温室効果ガス排出量の予測結果は以下のとおりと予測される。 【温室効果ガス（CO₂）の排出量】 総排出量：91,177 tCO₂/年

(7) 光害
1) 照度の変化
① 調査概要

項目	内 容
調査項目	事業地周辺での照度の変化
調査方法	写真撮影及び照度調査による方法
調査地点	対象事業実施区域周辺の3地点（No.1～2）
調査時期	施設竣工後 満月時：令和6年7月21日 新月時：令和6年8月2日

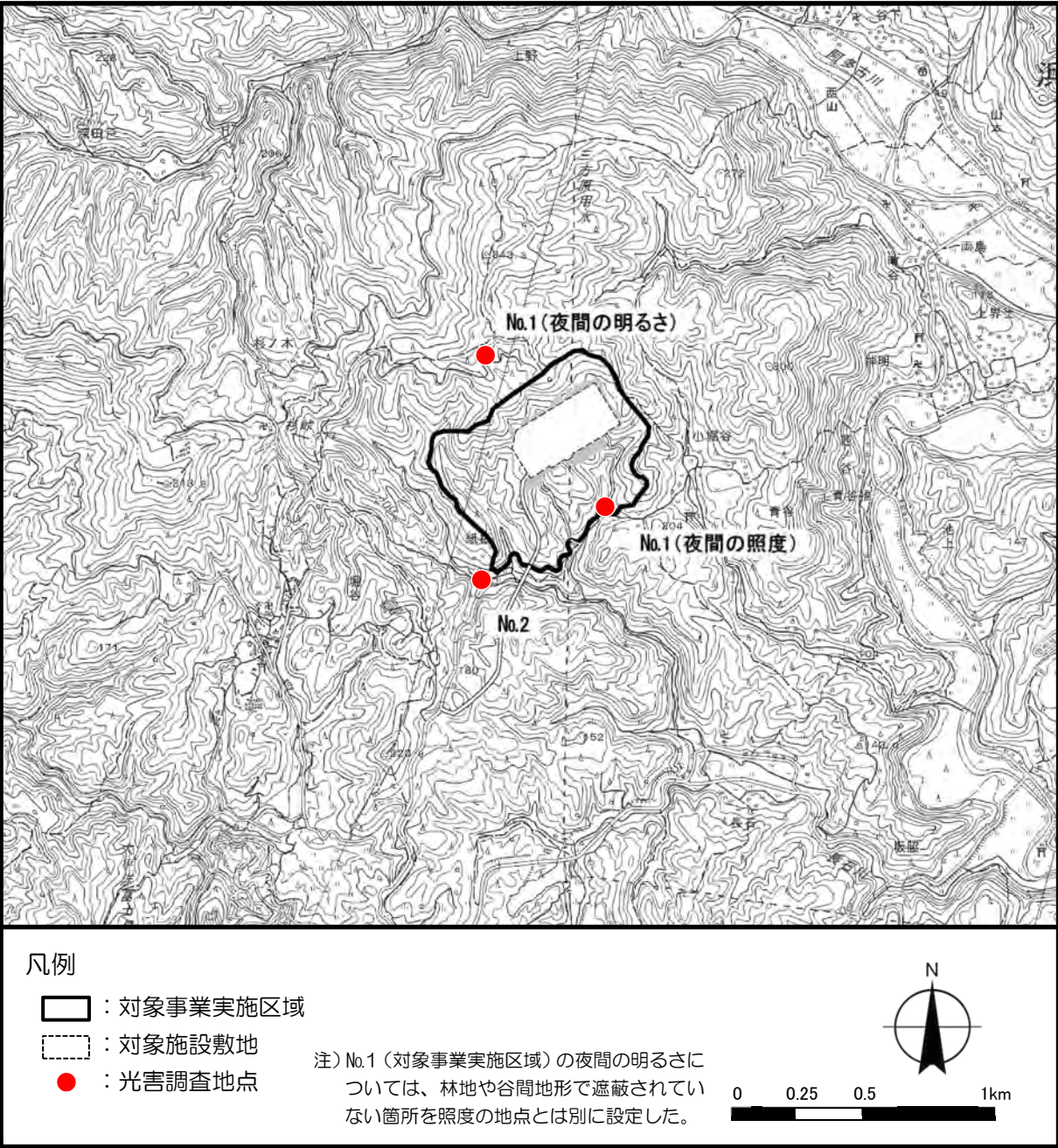
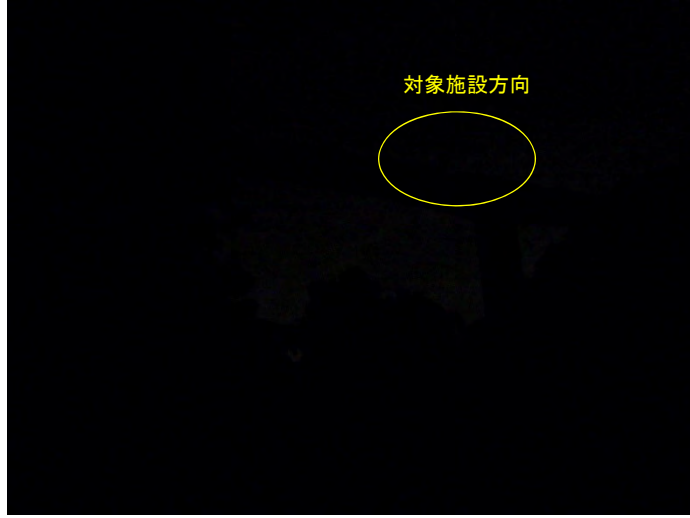


図 事後調査地点（光害）

② 調査結果

項目	調査時期	調査地点	照度測定値（lx）	
			満月時	新月時
事後調査結果	夏季	No.1（夜間の明るさ）	0.11	0.03
		No.1（夜間の照度）	0.10	0.02
		No.2	0.09	0.02

撮影地点	対象施設内の明るさ（新月時）	
対象施設西側入口		【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 施設建屋2階以上の上部に点灯している照明はほとんど無く、主に敷地内道路の街灯が点灯していた。 また、主な街灯には上方向への漏れ光を抑制する対策が施されていた。
対象施設東側施設内		【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 施設建屋2階以上の上部に点灯している照明はほとんど無く、主に敷地内道路の街灯が点灯していた。 また、主な街灯には上方向への漏れ光を抑制する対策が施されていた。

調査地点	調査地点周辺の明るさ（新月時）	
No.1 （夜間の明るさ）		【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 照度：0.03 lx 調査地点からは日中において対象施設を視認できない。 主な光源は市街地の明かりであり、対象施設からの明かりは確認されなかった。
No.1 （夜間の照度）		【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 照度：0.02 lx 調査地点からは日中において対象施設（建屋）を視認することができる。 主な光源は無く、対象施設からの明かりがわずかに確認された。
No.2		【調査結果】 撮影：令和6年8月2日 照度：0.02 lx 調査地点からは日中において対象施設を視認できない。 主な光源は無く、対象施設からの明かりは確認されなかった。

③ 予測結果との比較

項目	調査時期	調査地点	照度測定値（lx）	
			満月時	新月時
建設前	夏季	No.1（夜間の照度）	0.10	0.01
		No.2	0.04	0.01
建設後 （事後調査）	夏季	No.1（夜間の照度）	0.10	0.02
		No.2	0.09	0.02

予測項目	事後調査結果	予測結果
事業地周辺での照度の変化	夜間の照度はNo.1の満月時で0.10 lx、新月時で0.02 lx、No.2の満月時で0.09 lx、新月時で0.02 lxであり、対象施設建設前の照度と大きな変化はなかった。 また、施設照明による漏洩防止対策を施していることから、光害の影響はほとんど無いと考えられる。	夜間照明として、出来る限り紫外線域の波長の少ない低圧ナトリウム灯や発光ダイオード（LED）を含む光源を使用するなど、点灯時間の十分な検討をすることにより影響の低減を図ることとする。これにより、照明による漏洩が防止されることから、光害の影響はほとんど無いと考えられる。

1) 施設関連車両の走行に伴う交通量及び交差点需要率への影響

項目	内 容
調査項目	交通量、渋滞長及び滞留長、信号のサイクル長
調査方法	目視観測等による方法 (渋滞長及び滞留長、信号サイクル長はNo.1地点のみ)
調査地点	施設関連車両の走行ルート3地点 交通量：No.1～3、渋滞長及び滞留長：No.1、信号のサイクル長：No.1
調査時期	稼働後施設定常稼働時における施設関連車両の通常走行時 令和6年10月15日（火）7:00 ～ 18:00



[断面交通量]

調査地点	道路名	11 時間交通量（7 時～18 時）				大型車混入率（%）	ピーク時間交通量	
		施設関係車両（大型）	大型	小型	計		時間帯	交通量
No.2	県道熊小松 天竜川停車場線	351	218	1,034	1,603	35.5	10～11 時	198
No.3	市道天竜長石線	130	150	595	875	32.0	7～8 時	132

調査地点	道路名	断面	11 時間交通量（7 時～18 時）				大型車混入率（%）	ピーク時間交通量	
			施設関係車両（大型）	大型	小型	計		時間帯	交通量
No.1	国道 362 号 バイパス	①	333	190	1,331	1,854	28.2	11～12 時	223
		②	171	1,122	5,668	6,961	18.6	7～8 時	1,098
		③	5	388	2,442	2,835	13.9	7～8 時	342
		④	201	1,532	7,531	9,264	18.7	7～8 時	1,424

項目	施設関係車両による混雑度		
	No.1(断面②)	No.2	No.3
7~18時	0.115~0.253 (最大:7~8時)	0.031~0.077 (最大:10~11時)	0.009~0.039 (最大:15~16時)

施設関係車両による混雑度		
項目	東行車線 【直進：④→②】 【左折：④→①】	西行車線 【右折：②→①】
7～18時	0.166～0.333	0.020～0.100
項目	南行車線 【直進：①→③】 【左折：①→②】	南行車線 【右折：①→④】
7～18時	0.020～0.048	0.028～0.074

予測項目	事後調査結果	予測結果
交通量の混雑度	交通量の混雑度は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはなかった。 なお、No.1 において混雑度が予測値よりも若干高くなった要因は、環境影響評価書作成以降に国道 362 号バイパスが整備されたことにより交通量が増加したことに起因する。 【混雑度】 No.1 : 0.115~0.253 No.2 : 0.031~0.077 No.3 : 0.009~0.039	交通量の混雑度は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはないと予測される。 【混雑度】 No.1 : 0.066~0.109 No.2 : 0.031~0.058 No.3 : 0.018~0.027
交差点需要率	交差点需要率は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはなかった。 なお、No.1 において需要率が予測値よりも若干高くなった要因は、環境影響評価書作成以降に国道 362 号バイパスが整備されたことにより交通量が増加したことに起因する。 【需要率】 東行車線の直進・左折 : 0.166~0.333 西行車線の右折 : 0.020~0.100 南行車線の直進・左折 : 0.020~0.048 右折 : 0.028~0.074	交差点需要率は以下に示すとおりであり、飽和状態(=1.00)に達することはないと予測される。 【需要率】 東行車線の直進・左折 : 0.083~0.146 西行車線の右折 : 0.013~0.047 南行車線の直進・左折 : 0.017~0.058 右折 : 0.029~0.078

庁内関係課からの事前意見に対する事業者見解

No.	ページ	意見	事業者回答
1	3-104	「浜松市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づく2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標達成に向け、石炭コークスなどの燃料の使用に伴う二酸化炭素の排出量を削減するため、バイオマスコークスの使用などを検討すること。	本事業における二酸化炭素の更なる排出量削減の取り組みとして、今後バイオマスコークス等の使用を検討いたします。
2	3-104	「浜松市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づく2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標達成に向け、廃棄物の焼却に伴う二酸化炭素の排出量を削減するため、製品プラスチックの分別や燃えるごみに含まれるプラスチック製容器包装の削減などを検討すること。	本事業は収集された一般廃棄物の処理を行うものであるため、ごみの分別や削減推進に係る取り組みについては関連部署と連携いたします。